宗家記録

諸方御内用往復書状扣

文化四年

三

94
1
49

準貴

宗家記録

諸方御用向往復書状扣

第三冊

慶應義塾圖書館藏書之印

文化四年七月ヨリ
仝　年十月迄

[illegible]
被[illegible]候ニ付[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]月十九日

[illegible]被仰付[illegible]胡[illegible]
公儀[illegible]
[illegible]
[illegible]板倉伊賀守[illegible]
[illegible]
[illegible]被仰付[illegible]
[illegible]
郡奉行[illegible]
[illegible]用人[illegible]

一 同日肩付 加判之面々 京都江進候ニ付
御飛脚ニ而箱ニ入[illegible]差越候
以来ハ朔日十五日廿八日ニ一通遣候
儀ニ付可遣候得共及延引候ニ付
右之趣何も御承知可被成候
一 御書出之節御用書付候ハヽ肩付ニ可致
義ニ候付[illegible]
当月中旬ニ至り上京一[illegible]相成候
以来遣候様ニ[illegible]

ニ付承知可致候
右飛脚ニ相渡し[illegible]御用状之儀候
六月廿日
古川[illegible]
古川 主殿
御用承知可被成候
右之書付九日相達し候 以上
六月十九日
加納勇右衛門

渋谷隼人
猿文三郎

石川治兵衛殿

右之者六月十九日[illegible]成之候

御武　去十日ニ当春并ニ住候ニ付当方ニ而[illegible]小差ホ

去候ニ付所出羊数御詮議之上御下相渡可申

之候相当御用人役之良可申候ニ付之ニ府人

之ゟ候　已上

御名

去ル子年所出羊数御詮議之節ゟ相渡申上

又去ル二日例人へ申渡し

前略一　西国筋御判物并御朱印頂戴

ける事ホ日之庫実施先早速帝中呉候人

此者法之并物得之事定にて候時

仲寺大月廿日候之し

続なり民九年一候

因協大度

大月廿日

一西国筋御判物之儀於今頂戴知行高

今相世上通用停止候て知行高

百石ニ付御拾石宛下并御朱印之儀

并右御朱印世上通用停止之御頂戴

之儀ニて之百石ニ付拾石宛下さる大

御判物并御朱印之事候て頂戴

右之拾石人候之九頂戴に

右九之ニ上書候之し

右之御申付て

右候之度

六月廿日

去ル十五日公事方勘定奉行中ゟ

御引合ニ而見兄弟共人足寄御触　右ニ付

三宿触元役搬置候ニ付左様可被成候哉

右之趣ニ付和泉守殿被仰付候

御勘定奉行衆

六月十九日

月番

牧野出羽守殿

浅草ゟ申参ル

今川左門殿

右之段申渡し

六月十九日

佐山因幡守
川路左衛門尉

酒井雅楽頭殿

酒井丹後守殿

川勝備後守殿

藤田主殿頭
同

酒井隼人殿

右之趣相達候

六月十九日

安永拾七月
木下大和守殿

右之通当月之新通ニ候之

何ね之先
御法度

井上河内守殿
太田備中守殿
安藤
手控之控写

御触
御先おてこ通御ころ節出来
下之町之御世話ニ而印之ん
出候御之之下之触

右之通出候事
但
御先年之事ニ而我之寄之定之手入申候
之事

覚

一 町触当年之お触御年寄ニ而相
触之之御先年先年取用相渡之
出之候御先之而之申触式之通并十一年
中分御町之ニて有之之而之も御先御世御分

[illegible]渡御し 次第 [illegible]渡御し

[illegible]千秋[illegible]渡御し

[illegible]半——

右中将従之

手水 掃之

陪 幸寺

焼 五之人

奉行 六之人

押 三之人

宗人 五之人

焼 三之人

奉行 四之人

御掛

宗人 四之人

第九 之人

日条切之

擶乙从 三條

別当 四之人

第九 幸之人

先从乙 土合 幸之人

別当 三之人

第九 幸之人

先从乙 奉行 三之人

押 幸之人

五掛 一三條

大[illegible]渡御し 後三條 御迄之[illegible]

[illegible]し 半——

元〆 廿一

右之通別紙ニ而五拾〆目程差出候

善右衛門
弥兵衛
七右衛門
喜兵衛
新兵衛

五郎兵衛
佐兵衛
善兵衛
惣右衛門
清右衛門
伊兵衛

以別紙之趣申上候通、是迄廉明役所ニ而掛り
かなまちの方え
念入候ニ而精々相改候
茶并掛紙ニ而上京 御用係ニ而掛り
候得共御改帳御書一冊差添候ニ而相談之上
おちしも受取度
御用番え御談之上御取計被成候ハヽ御届之上可
被下御用向之事ニ候ハヽ御達之通ニ御座候
中途ニ而御引合御座候ハヽ左様御承知被下

三月廿八日 大川治左衛門

一此度之御改方通
御同役衆御引合之趣
ニ付帳面ニ付御糺帳
今般差出候ニ付右
之段御達候

酒井雅楽殿
村岡近江殿
村岡相模殿
小川丹下殿
仁位孫一郎殿
古川蔦浦兵部殿
古川采女殿
右於茶六月十八日右之達以書付差出候以後返答ニ
如此

六月十五日
古川采女
古川蔦浦兵部
小川丹下
村岡相模
村岡近江
酒井雅楽

古川治兵衛

前段申進候御国同列中一宮より
拾四番五月十五日之御状御差出を
披見いたし
上之様御安泰之段御府依中安心之
其上此右状箱早速如元差越
御差次第ニ相渡候也

七月十四日
吉川重升殿
古川治兵衛

申十二月八日ゟ

御伺帳

御普請助役
御国掛衆
衆中
　　庵原左衛門

右者
美姫様御上京　御入輿之御用掛被
仰付候ニ付此段奉伺候以上
　二月十二日

右伺之通ニ候　盛以後沢相良丹後

同年之子紀伊江

卯七月十六日

一切支丹宗門中等様之儀細川
流之助様右京大夫より被渡去十一日遣候
之　御作付
御門目見　御門一字之儀ニ付白敷様四條
伺候御門番御門願蔵御門刀持段之義
作付

一　京都町奉行寺山伝役之様日限之遣
前田和様之様御書付様之御役
右之者江之家　作付

右之通出帆済書ニおゐて御届申上候
以上〻〻申上候以上
六月廿五日
吉川重次郎
俵文三郎殿

右御切紙去十日御達以承知御請
申上候以上
七月十五日
俵文三郎
吉川重次郎様

追啓
御下知之趣
以御切紙中書出田共ニ御申付候ニ付
申状貮通御拵見候様紙ニ而添
御請取候ニ而出来之趣御申付候
以上
六月廿五日
三枝
御用中
右之申状控え様書付ニ而〻出来御座候以上
右御切紙去十日御達以承知御請
申上候以上
七月十五日
俵文三郎

右之段ニ御達申
上候様ニ被仰付候
右之段申上候

内七ツ半時ニ着

一 御書ニ達ニ相成候ニ付
上様御機嫌能被遊御座恐悦至極ニ奉存候
右之段御掛合ニ而御請旁申上候
以上

六月十二日

吉川与升

信文三郎殿

右御書状今十月十日ニ御達ニ相成ニ付書面ニ而申上候

御請
御年寄中様

以上

青木　信　文三郎

古川惣兵衛様

〆御返し

卯十月廿六日出

以切紙申上候江戸御宅醫師坦國
良仁殿儀御指引御受申上候
去七日出京都着先達而別紙
同状届候趣別紙有之申上候御承知
御渡候人大坂御屋敷へ御渡候御通ニ申上
御座候御内ニ御付之申上以上

十月廿六日

古川治兵衛

御年寄中

右御切紙去未二月於当地遂取書之及
御返答候以上
五月廿五日
古川治右衛門
御宿 年寄中

午十月廿八日

上方衆中御伝来
被指越候

以切紙申進候
宮武清次郎治之丞殿
御寄合之儀御伝来御請取候以上
四月廿日
古川治右衛門
御年寄中
御伝来省略候
右之切紙去未二月於当地遂取書及
御返答候以上

五月廿六日

年寄中

古川治兵衛殿

卯七月十六日

三月初旬

一切紙中進候尾張前大納言様御筆

之同様古河因幡守手前ニ有之候処

付候之同様一橋殿古河相模守手前来

前ニ有之新相模守様被渡古河治兵衛殿

右之趣中進候以上

閏月廿日

古川治兵衛

御年寄中

右者切紙去ル方相達以後書付

猶後音之時候以上

五月廿五日

古川治左衛門

御年寄中

上ヶ申候御案
去状三月相達候

午七月廿九日達

以切紙申進候、江戸表去ル月計方
揃当四月六日迄之書状相達、別紙之趣致承知候、
上之様御安泰之旨、於御府ニ御中来
当方無事之段承候、右状差急差遣候
成下候様相達次第ニ相渡候以上

四月六日　古川治左衛門

御年寄中

右切紙去状三日相達　以別紙書及

御返答候以上

五月廿五日

古川治左衛門殿

年寄中

卯七月九日到来

右之書付到来
被相渡候

以飛脚申進候此度
御國喪ニ付鳴物御停止之旨御首尾
御法令之義ニ付御停止ニ付去廿日より鳴物
御免之義以別紙状末ニ御書付寫之通
松平安藝守様より被仰付候以上

卯月九日

古川治左衛門

御年寄中

御状末之趣聞候

右切紙廿三日相達候ニ付書及
御返答如此ニ候

五月廿六日

御示
年寄中

古川治右衛門殿

卯五月六日

以切紙申進候、傳七殿女
義者源次郎方へ参候、先達而浦ニ出来候
之縁ニ而相成候所、御知来候由
宜敷可被仰付候、委細追而可得御意候
以上

同月廿日

古川治右衛門

浦年寄中

之書付ニ而申来
候故相見候

右済書之旨相聞申候

右法印殿去亥二百桐生以茶及法度返去候
以上
二月廿二日
古川治兵衛殿
年寄中

戌七月廿八日出之

上方御用向御用来
被成候条

以書状申進候、今般大坂ニ而紫寄居候
英吉利人致賀茂ニ而其節居候
御法度之義御掛御通達有之候ニ付
早々相改可申候、以上

同月廿日
古川治兵衛
浅草年寄中
浅草参着御名主中
右法印殿去亥二百申達候書付及

御返答以上

月　日

石川治兵衛殿

年寄中

右年寄衆へ之上

尚々御念入書状来
返報申候

以切紙申進候浅野但馬守殿より御返答
之外ニ我等方より之書状末ニ通
三ツ為御披見御手前迄進之候

以上

月　日

石川治兵衛

御年寄中

一書状来ル七日之飛脚ニ

右之切紙去二月相達以後返答申候

以上

五月廿五日
古川治右衛門度
年寄中

卯十一月廿八日着

と申来候由申来
被指出人々

以手紙申進候、京都ゟ被仰松平
肥後守様今度御國許ゟ御暇
被為出候様被仰出候段文到来候
御許容承候処御京都ゟ御推任
御沙汰も御状来、通ゟ致可被仰
来候付以飛脚申進候以上

四月廿日
古川治右衛門
御年寄中

此状来ル十二月晦日
右切紙去廿二日相達候以添書及
返答候以上
十二月廿二日
古川治大夫
小笠
年寄中

十一月廿八日到来

上より申来御用向
申来候

以切紙申達候当書付被仰付候節之儀
然者御用御掛諸家打揃年寄之
諸向中へ会並候得御前廻之通委細
添書を以申候以上
十二月廿二日
古川治左衛門
御年寄中

右添切紙去十二日相達添書を以
及返答候以上

右御用之品者
遣候若進上ニ付
早々差上進
御屋敷

卯七月廿四日出

進上之銀子弐枚於紫宸殿車寄
御渡ニ宸筆御短冊被成下候
朝廷向諸国之儀ニ付御上京御参会有之
付二條様被仰付御遣之品之
御事ニ而当年御事ニ御親類中御用向存之御暮
有之於御殿御番上京ニ
御内付ニ付御在之御後様ニ而御暮居
去夏ニ付御役御内ニ付候得共一枚御渡
一枚目之御事ニ付差上候御蔵ニ而去夏ニ付御預

六月廿五日

御家
年寄中

古川小治兵衛殿

当時其御屋敷中ニ付去ル八日源兵衛殿
吉本蔵之助同人其御同所ニ而御用人
高嶋誠之助殿ニ而誠ニ兵衛御源
御様子之時候ニ而大臣高橋進殿
御同上及段中迄御出来ニ而私ニ相
致入魂無之如此先八日御渡ス来満足
思召之御同上第一ニ御手廣ク被為
一名御掛御一名別段御用取之迄
御禮礼之御出来ニ被下候有之候大迄

可有之
御同様ニ御出来ニ候共私式目前三郎
御帰坂中ニ付同人源兵衛御様子之
実ニ清ニ而実ニ中付ニ候不ニ相見ニ御座
及候不案内ニ付何卒宜敷御頼申上候
猶以御座候ニ付御出来ニ而御座候

四月十九日　古川治兵衛

綿維蔵殿

村上近江殿
村上相模殿
小川丹下殿
仁後孫一郎殿
石川菖蒲喜部殿
石川采女殿
右御状去七日相達 致書之趣承知候
以上

五月廿五日

石川采女

石川菖蒲喜部
小川丹下
村上相模
村上近江
路雄菅城

百石御代官 案
拾貫文佐々

卯八月廿九日

以切紙申達候 表雲山陸奥守
禁裏御附被為 蒙 戸田大和守様
此度御役御免之上 御勘定奉行 支配被仰付候
右之段被成御請候様可申達候 以上

八月廿九日

吉川主計

追而
請取申
書状被差越候

右之切紙以別書申達候 以上

吉川治太夫殿

以上
宍和佐

卯八月十五日

以飛脚申達候、去四日如此候
御従様而
上様逝去之儀前実申候而出来
候支ニ而御座候二條様被仰出候
候得共御沙汰勤申之候以上

七月十四日
吉川重𣳾
宍戸
諸役中

右吉川切紙去月廿八日相達 以上 墨書

八月五日
吉川重𣳾
宍戸
諸役中

沙汰申上候以上

八月五日

江戸
徒役中

吉川八兵衛様

差添候

一切米中違ニ付沙汰同断此留
出紀武ゟ用役之為立来中
ゟ国表中迄編之海金三百文
之差出候得共以上

中八十六文

八月十四日

吉川八兵衛

江戸
徒役中

右沙汰切米之義八月和違以別書
沙汰義申上候以上

八月五日

吉川主計 柳

早 諸役 中

以飛脚申達候、然ハ同心中[illegible]
六月十四日[illegible]老中[illegible]書附を以御達ニ付
大坂拾壱番[illegible]
御達[illegible]
拾壱番[illegible]御役[illegible]
候間[illegible]
書面之趣[illegible]

七月十九日

吉川主計

小林[illegible]青山
[illegible]

江戸
諸役御中

御先月中御伺書一冊差上候
処御紙を以
右御切紙去月廿八日御達し書を以
被仰下奉畏候御請申上候以上

八月五日

江戸
諸役御中

長川
某村役

當御役人

以切紙申達候然者御伺書一通
去ル十九日梅津伊賀守殿江清水
奥右衛門持参差出候
御差図次第可被致候以上

御切紙之写

七月十九日

長川
某村

江戸
諸役御中

右御切紙去月廿八日到来
拝見仕候承知仕候以上

御答申上候以上

八月五日

喜川良輔 判

江戸

諸役中

卯ノ正月ゟ迄

御内用留

前状令披露之所、去年秋及披露、併近来
宮氏之御同類浪人流言等、国之以来
洛中之人気甚不安堵之輩、若見瓢
先般申進候、濃州中将様御一門御多人
数之其上御出陣候、 御出陣之儀
風聞之儀有之、旧冬追々申御承知之旨
状来之御下知書等、足下成之趣
也、勤者、為当役、是等之御披露仕
候、是非之儀、御承知之旨、堪忍候

六月二日泰御判
被相渡之也

六月朔日　石川治太夫

深雄並城殿

村岡近江殿

村岡相模殿

小川丹下殿

伊佐源一郎殿

石川菖蒲太郎殿

石川采女殿

此状来ル令着昭候

右御状去五日相達候書状

御返答ハ如此候

六月十二日

石川采女

石川菖蒲太郎

小川丹下

村岡相模

村岡近江

浮雄益[illegible]

石川治兵衛殿

加州より書達

以飛脚申進候江戸表ニ而御井方より
拾弐歳四月廿三日之書状相達
と被存候
上之様御安泰之段御承候ハ中来
御国恙無之候ニ付而石御意無奉存候
不取敢右達役所々御渡候以上

之歳之御状書
去年之手紙也

六月朔日
古川治兵衛
中川半兵衛中

右切紙去月廿日相達候ニ付及返答候
以上

六月十二日　年寄中

右ハ
酒井雅楽頭

今朝紀伊殿より此度之返答
到来候

御ハしまつりかた

御切紙中進候得共表向ハ　只今方へ
拾て置四月十三日之書状相達
候得ハ被得其意候
上て根津安来と申者江戸在候中来
候間無之候得共右書状無之可申候
者ニ而候得共相達候ハヽ可相渡候以上

六月朔日

右ハ
酒井雅楽頭

御年寄中

右切紙去丑正月相達候処及延引候ニ付

以上

六月十二日

年寄中

古川治兵衛

右御布令之趣御消印
尚又写之事ニ付

一 切紙中進以去月廿日ヲ以テ別紙
三條上ル本屋町西法屋安兵衛雑穀
出火ニ及ヒ候ニ付消方行届候段
此段右之段御届申上候以上

六月廿日

古川治兵衛

御年寄中

右者切紙去丑六月相達候以御答及候

右之趣答候以上

六月十六日　　　年寄中

古川治兵衛殿

之義紙

卯八月十六日出

一 御紋之儀ニ付此節御尋有之候得
共御先代中納言様御儀ハ御違之儀ニ
御座候而居候ニ付只今迄以御紋被
為用候ニ付右御紋之儀者何共不相知候
御当家ニ而茂桐紋居候ニ付御尋被遊候
御見込之通ニ可被成候　御紋之儀ニ付者
猶又先年御国許より相尋候ニ付御返答ニ
御座候　御同所様御請御振追而　御
桐紋居候ニ付兼而以御尋御文答ニ及候儀

材木役之儀者沖津浦向寄候様ニ付其段被仰付候
為其申達如此ニ候右之趣可被相心得候

五月晦日　　古川治兵衛

鴻雄益城殿
村岡近江殿
村岡相模殿
小川丹下殿
仁位孫一郎殿

古川蔦浦六郎殿
古川采女殿

右清衛去五日相達候書及左之通ニ候以上

六月廿二日

古川采女
古川蔦浦六郎
小川丹下

古川治兵衛殿

村益相模
村益近江
鴻雄豊城

乍恐以書付

平川主水方迄

以手紙致啓上候然者為御家
御用御借居候粮米五千俵甚気毒ニ不足ニ候
ニ付一先大坂表仕廻之上出役追而可申ニ
頼入然ル上ハ早速御下知之儀御頼申
度候並御野豊後守様江被及御沙汰候
通ニ御頼之趣御聞届有之御米
五千六百六拾六俵者大坂御蔵御借被成
御請文御渡ニ付右大坂御役所相模守
以書文同月十七日御渡被成候御届致候間申ニ

以後中銭ハ道下方之銭悉細大撰候分ハ
桐生銭ニ付以後者年番助勤候様ニ
出精可被成候以上

五月晦日　古門治兵衛

満雄菖城殿
村忠逸江殿
村忠桐模殿
小門丹下殿

仁位源一郎殿
古門菖浦太郎殿
古門宗女殿

右書付去五月晦日桐生ゟ総書及
申達候ニ付写之

六月廿三日

古門宗女

古門菖浦太郎

當家之義ニ付

御紙中進ニ日野大納言様御事
今般武家傳
奏御役被蒙　御沙汰被為在候
随而御進ニ付當時之御役御用捨掛
並清水園基量へ相勤ニ
柳原大納言様御事職
奏御役被蒙　御沙汰之趣承知ニ
来ル
右之段為御心得申進候也

古川治兵衛殿

小川丹下
村田桐模
村田逸江
湯雄益城

六月朔日　古川治兵衛

御年寄中

右御切紙去ル晦日桐生ゟ書及
御名前以上

六月十六日

御年寄中

古川治兵衛

[illegible]

江切紙中上作平山[illegible]書状被
御一統御国[illegible]御合商用
中旬来月上旬ニ相成候ニ付御裁[illegible]
御様子[illegible]承り候付[illegible]御[illegible]
諸事[illegible]相達し[illegible]
及[illegible]
[illegible]
[illegible]

卯六月十六日

来月初旬之積ニ而庭山派中一同
右之様之為也又々御願被下置候
御下向之上ニ而尚御地之都合
御下向之節御吟味被下候御都合
於御通之節御許容ニ而宜敷様奉願候
奉願上候以御沙汰御上京之儀御返事
御同列中様江別而宜敷申上置候

以上

江戸
諸役中

七月廿三日

古川清兵衛様
古川重村様

大和紙屋五郎兵衛方以別紙申遣候
以上
八月　真宗　御印
宮沢様

は忠

御内用

卯八月六日出

御家御一統之衆中
御幸を振りて
申候事も
之様御安泰被遊
候事之御座候
三百石御渡之候
日田御郡代御役
御座候
別当八年早速
手前御調方
申之候
在之候事

以前今般之者御沙汰首尾
上々様御安泰被遊御座目出度奉存候
将又今般日田御郡代塩谷御役所御座候
然者御懸り御役人衆中様被遊候
御役之候御役御八郎殿御渡之候
勤向御八郎被遊候節諸事
三百石御渡方候御座候
八郎より在之手続申候
中途之様子

[illegible]

思召も有之候ハヽ
御座候ハヽ其上ニて
御手間取候而ハ当
方ニ而も此儀ニ而
御承知之上ニ而御差支
無之候ハヽ御尤ニ存
上候御都合ニ而も
先達而御申越候
被申上候通り御座候
御頼之儀ニ而御承
知被下候様奉願
上候以上

此米御用ニおゐて者家業之御為ニ
御勝手ニも相成候ニ付御尤ニ存候此節柄
春以来御内気不景御用ニ而度掛候而ハ如何
彼是ニ而御断申上候
右之通御頼之御事ニ候ヘ共
要用向御用談中ニ而右之通承知仕候
御用意之御儀難量存候間御断申上
先年御勝手ニ付御書面ニ而
奉存候一通り及御断候以上

其御用之一助ニ相成候故御見合ニ而承知
其後ニ相成候ニ付猶又御出精被下度
右之段以書面御案内申上候
御頼之儀ニ付御書状被下候
其上御承知之上ニ而御用之儀
右之通御頼ニ付御用向之事
其後御書面御返答申上候
其内御出被下候様奉願候
以上

七月廿六日　平田篤胤

古川治兵衛殿

七月六日回御沙汰御座候ニ付御沙汰
之趣相心得御賢察御座候ニ付御沙汰中之
年ニ而当座之返答ニ及候得共右御國度写差出
挨拶之者名御出申ニ而録状見届ケ候て差渡
之候文御沙汰後方ニ而候ニ付右候得共御座中ニ而差出
海岸見廻り之儀当事御厚之事ニ而御出状相済
可被下候
御座候
当月御座候処海岸之岩石瀬ニ而

読と浦に釣するや及ぶは又いふに任せし
尋ねし西人並ぶは嬉しからず多くの事を語り
折し不浄に身を捨ても保つ無き事は心を痛め
徳も世の為に是を打捨て其日を暮しかね申し候
命日をすゝめかつし我若いは待し給ふ也へ
悲しき人の身には又は実とも思ひなる事多い

寵田度々

世間には是を胡銀は能くは其身を誠に也
有しは高歌多人数は是夫に成るは待ちし候ふ

ほしかり清浄に見え給ふ身を以ては是を殺しては代々に
胡銀は皆易くは見えとは家居は申す事を持ての
知る事なくて嘆事は甚嘆に移り行く
中に痛む心にて命には後には無く一所に申すは世の家居にて
三百石の後世も以ておる事も無く浄度方済居にて
松中に是をも長別中に現覆是中は付けに付
打願ひは後人をもて世のは是を言ふは誠に申言
居ては夜にて去延順て今夜も是を同顔有しは
打ち殺しを家も有しは出でにけれ後にも出傷飛保

御内々御静謐ニして深長引御含蓄ニ
中ニ候ニ付出度御事ニ候ニ而下郡計
当村是ニ御周旋被成下候ニ付由承及候
猶御身合出来候ニ付宜ニ御座ニ付而
及御案内候御清被成下候以上

御答

以書状御示之音郡ニ相成候ニ付三百石
之段御周旋ニ大慶念存候ニ付御満
御勝手よろしく候ニ付拝承候

屋田原より

長引之段御手紙ニ而委細ニ承候ニ付御見
舞賞来ニ一番ニ而候ニ付御承知ニ付深
御手紙ニ而遣候様御頼ニ付御演書
相添ニ而差出候処御返事ニ而有之候
右ニ付御座候而ニ御文言ニ而一ト先
御ケ候ニ御長引ニ而実際被成候ニ付
急キ御取計被下候様被仰付ニ而
御内静謐之御様子よろしく候ニ付言上

一京師御返状ハ 御序次第差上候由ニ御座候
早々可申上候處延引仕候

以上

尚別紙御草稿之写奉差上候義
御達候て如何様共可被成書面注文之義
以後御見合之由申上候處御達候哉御承知
可被下候様奉願上候

右申上度

以上

如月八日

頓首

猶以本文御褒美之
被仰出候

以切紙申達候、去ル十六日
将軍宣下之節、御中坂同十七日
御帰洛之節、御別当御勤向委細被
御別当御満足之趣ニ付御褒美之旨
相心得申達候、以上

七月廿八日　吉川[illegible]

[illegible]文三郎殿

猶、御褒美被成下候段[illegible]

右切紙之通相違無御座候ニ付以書付
申上候以上

八月廿日　　俵孫三郎

吉川重平様

此度御尋ニ付御返答
之趣可申上候

卯八月廿六日返

以切紙申達候、御当国領中方より拾
両□□□□□□□□、井桁屋へ□
抜見候処
上様御□□□□□□□□□候中来
□□□□□、右御□□□□□□□て
□□□□申達候□□□□候以上

七月廿六日　　吉川重平

俵孫三郎殿

右切紙去九日新井氏ゟ筆書ニ言
申上候之

八月廿三日　猿　文三郎

吉川主膳様

御内用

上意御承知之
利之御手紙
[illegible]結
一元

一簡令啓上候弥御清穆方哉
上様御機嫌御安泰被成御座候同意
奉恐悦候将又今般平山勝書以
右貴国漂流之船旨時宜為
送使朝鮮国白義御渡海回来之
更返源次
因右被思召之矯乱之甚言之御安寧
御心之免人民豊安之啓達
相保之免候ゆめ被思召之

御國書御渡[illegible]之義被[illegible]
御受[illegible]被成[illegible]彼國王より申通
来[illegible]有之[illegible]加封酬[illegible]御[illegible]之義
ニ付[illegible]御使者[illegible]
彼國[illegible]挨拶振[illegible]委細[illegible]情状[illegible]
[illegible]御書[illegible]渡
[illegible]御渡[illegible]彼國[illegible]帆
[illegible]速ニ[illegible]
御達[illegible]

并御儀義[illegible]
御恩威[illegible]彼國[illegible]
[illegible]
御渡海[illegible]
為御使者
御國書御持渡[illegible]
王[illegible]國王[illegible]
御國書[illegible]
彼[illegible]大[illegible]

此節軍役多ク備ニ新規津ニ海而ヽ
是沈ニ付而も
本朝ニ疑を於抱居候中ニ付
御國使者勤候之諸官中ニ而ニ茂
派遣之ニ成候事之彼國ニ此節渡海之儀
申付候處大浦友之丞春日同村右衛門
等居候ニ渡海被成ル渡派遣一郎并派遣
幹事候可為中山来候処此九月十五日
講信使但居候者両之若ハ外向ニ

致熟達候得共彼國而茂
御和好以来御先例無之儀ニ付
東萊訳官ニ而実ニ驚候様ニ報告ニ
及候ニ一旦者
仕出候處是非義理ニ不成して
雖申候付訳官之京方ニ而茂達廷議
通言事之中ニ而候相談茂達候ニ付及其報
申来候ハ彼是文彼方より及延願候而
此事件御尤至極ニ存候而朝議

一朝一夕之訳ニ無之候旨尤ニ候迄者
之新法ニ不運して之雖調候得共何分定前
御国法ニ而渡海之儀ハ御見合ニ相成候様ニ
申出候得共右相延及候得共必定
押而御渡海之義ニ可相成何分相識
延引ニ付御相談之決判も無之居候処
右御右之延接之義諾一応世上之
差向渡海者相成候而も不宜候得共又
申上候様申来候旨依而今般御国書を

先般
上江御封書を以御国書之儀ニ付段申立
右相延候之雖然も申上も有之候段
押而御渡海之上彼国之義諾無之
御入京有之事候右相渡之儀相当ニ付候而も
公爵江白状為對右取締雖有之者也
有之候す
御国書中之遠之趣ニ付右ニ候而
皇国一般之御振ニ相成候ニ付一大事之

儀ニ付何分被仰出候一左右書付差添候て
雑作ニ付御申向キ有之候条奉従逐一申上
御渡海之儀ハ猶又申上候間御座候
日高源一郎并職方之者共奉願候得とも
合書来候ニ付彼地御評判之上ニ而も此業
偶御進之儀御請取御座候
之趣申上候

差上済
卯六月十四日

古川　来安

樋口　鉄四郎
古川　蒲浦太郎
小川　丹下
村岡　杉塚
村岡　通江

貴状令披閲候然者於何方義
上之様御安泰之由筆者同意甚以悦候
将又御陣営大甫及之処御馳走候段感悦
御出合之様子委之儀御馳走尤候申合
打御境之儀被得其意候尤達而申上ル御事ニ
有之儀為何事之事義不申被付御
疑念之節ニ付大事件被仰達候段御入念
御議ニ而ハ不ニ及之将又申ヽ相分候ハハ
事外ニ引合申無之不下成私無異儀之由候

治雄　花押

吉川治部少輔殿
吉川自付殿

別当郎殿下来東表之義一昨之驚候相願
置候、左様ニ而者如何敷候之諸識取計
申、下来以之上何分者何向御沙汰
有、未御勘之中分者御沙汰有幹事ニ候
故、私等封進相様御家様上様幹事ニ付
相判上之御沙汰可有之御
何分上京方之道相達候而
申上候上京方之儀東表
若其後之事ニ付候而者其段宜敷御頼之

右者当郎殿上府中之儀此者書之御
御沙汰之趣通御教之一左右之何分御沙汰
海方共御留メ当度早々押候御沙汰候
並候之実ニ
御使命申安次第定可
御家人枚之事御沙汰御家
可之儀大切可然
存候、此段御聞済可被下候

五月廿七日

紀経源一郎

中冬

寒波入振々漸々海上おゆかいそうまてと 御座候
ふゆまて甫ミ候先之寂波守上代官乃善
様其御座候存候哉当方旅波其有
さ古之岸波取得被下候物一躍波容令
し候て向并候会し候て清心当
相越申候中に来たし候て年頭之可申
右波之可申上候肩右向文之候
只今之可申上同宮御来之前之御尋申候

淡雄 美濃殿
村岡 近江殿
村岡 相模殿
小川 丹下殿
古川 萬吉郎殿
古川 采女殿

彼様御下向之節者大慶不少奉存候
御滞留之内者手厚御懇情預り
清遠家内ニ而も殊之外満足仕候
右之入中之御心添ニ付御座候
今般返之及御披露候可被下候
右之段内々申上度如此ニ御座候以上

五月

大浦友之丞殿

仁保源一郎

申合

千万今度於清用被仰合候
右村方之儀ニ付当年御年番ニ付
被成下候ニ而当方ゟ申合候
内書ニ而被仰聞候ニ付申上候
解候ニ付御座候
御相談
御披露御改ニ而御用向
了遍此方御儀御尋ニ而御頼可申候

信使之儀國情ニ付而及延期
御國中ニも段々
聞信使ニ而も御渡之儀ハ是非共當年
將軍之御名前ニ而國書被差遣候事ニ候
先ニ及今之形勢も有之先例茂有之
有之事ニ候故之處是非御請可有之
役換之者ニ付而は種々ニ付候處早右様
以 信使 國書御渡之儀一統へ
彼國ニも信使通事ニ而無之事 御承知之事

御信使之儀昔貴國ニ被請候得共
御達之處彼國ニも其表ニ有之
之處ニ付延引ニ及候ニ付其上
御座候ニ付而者御向ニ可申上向ニ
申出ニ付候處ニ付支配之者ニ付候
無之御用之處ニ付急ニ御請申上
御達ニ有之右ニ者早々其比ニ付候
別ニ國御用ニ而深沉様之國情
事ニ至リ向ニ差出ニ付猶更急速ニ御通達

殊ニ又右由緒ニ付不届ニ付遠島
候處ニ此者共罪ニ無之由又申ニ付
今ニ取候ニ付右之上ニ者御仕置申付候ニ
不相分ニ付罪之事ニ候ハヽ只今之通ニ重候
中追放又ハ其分御仕置可申候
申事ニ付候ハヽ其之旨ニ而承知
仕候ニ付是非ニ及ぶ儀ニ無之候ニ付
不及御沙汰候間右吟味之上遠
流罪ニ相成候ハヽ押込ニ可被仰付候

前之儀ニ候處右様之儀ニ而ハ無之大體之事ニ候得共
随而一旦申渡之上ニ而も追々ハ申候向ニ而も其之
被成候儀も不及沙汰ニ而存候得共先達而決ニ
如何様之儀ニ事之律之相成候ハヽ
無之旨向ニ而も右之通向ニ御座候ハヽ如何様ニも
疑惑疑念之上其向ニ而も其儀ニ候ハヽ
押込申候而要難被仰付候ニ付
右之趣書付其之事ニも無之候ニ付
右之通ニ而叶ニ候間可然様ニ

大事件[illegible]之[illegible]事却而宜[illegible]
可致旨被[illegible]一代言[illegible]
拙者[illegible]
[illegible]後[illegible]又被[illegible]
所役人[illegible]門拝[illegible]
[illegible]後[illegible]出府[illegible]
門拝[illegible]
[illegible]又被[illegible]
[illegible]

[illegible]二日[illegible]
[illegible]
[illegible]
大事件[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]大事件[illegible]
[illegible]
[illegible]

乃渡海之事ニ付異将上洛等之事候
若乃達候ハヽ被成下候哉否之事
大軍艤之事并兵気大猶取集乃渡海可
被討乃及可申候之様渡ハ諸大船之事候
達之由被仰渡海之諸奉行衆中へ差遣候
国書并達之捧物可申付被成
可申候是又差上候ニ付沙汰可有之
中処より渡海乃国之者共被差渡候
物又御尋候之事可急度被仰合候

此一条ニ付都表之動静并大概相聞
京師延引之上は先ニ可被仰付候哉
乃処留守中度々之事共前々
有之候得共只今彼国ニ而達置
中延引候得共急度其事延引之上
申付候ニ付諸事可被相尋
異国渡海之船還渡之時者速ニ差上
差上可有之旨沙汰可有之候
事候並二国之中ニ而之事

六月　伊庭源一郎

大浦友之丞殿

以別紙致啓達候、然者今般被相触候大浦友之丞
右拝借之義ニ付被相伺候處、御差支之趣
委細承知仕候、然ル處
御内使ヲ以御沙汰之趣一応承知仕候、右者先例之有
之事ニ御座候
上御役職之義者度有之候處、右之段大難渋
相成候義ニ付、右様之義者源之助
候得者源一郎殿ニも被及御
公儀江御出之上書付相認候江

然處今般
御國使以見渡之儀茂御座候ニ付
之候處何孝之趣ニ而御義被貴殿御國
之様相振并御國之御様子ニ御座候
之處御重大之御用向ニ事形ニ付ニ茂
今般之御差出段々御取計之儀
命を以諸之上御取斗之御改之
旧来之通信之御行届難之儀
得と之御様子尚之御差合通信使

之御渡之處右之通御伴御後中御用之
對之處後之御様子相尋有之候而
之對之義被申上候様之御伺
御國使之御振之趣之御手續之可有之
等御事之處之御使者之御用向之處
申之御様子仕候共御申出之以御座候
之初對之處候之之文字御座候之以御座候
是等之後之先使被差之之御進座
以後之其處御御知之後御用之観察之之

膝中之識縁経有縁理之指法以経答
中加之識経使所用作業所能破
圓寛居以為時宜料
圓仏須宋之一宗破出業末今者
善可経宿写変之君師作天之恐経と
極楽中唯之頌所為十方之菩薩以極楽有
十方支之今章足事之須定有之時縁定後
之乃説百為以時機之衰糸指此識論
極之説利返意之吉之今後総之正道徳

所使之古判変出之兵那因法達有之
又須彼色清額作此為今之宗有之
法時兼有西東有中達之霊以別善今紀業
須別花果之上来別後一霊心吉花之意完之
極楽相之為語後準来果為為感縁極之
總後之吉宗之大肥之意極営以為要之
識法色義数面必成主総今之以後
本利之中上之意之縁之為今宗因言覚華
之時実之其之的之為為由些芸之し

啓蒙當世未採以識實之紛擾察急務之
存候列容被論信大節之後復維之為
弊鎖國之規矩固守舊來之度候有之
猶更支代度
東武之官吏趣意之處無實亦以對
下申話合之以對民去年未曾有英
佛之戰爭之節一西洋各國
之列請以衣方之以之出而之存之
此一舉之事變以識之以對之驪郎者之

信義無之事機會信之
西洋舉行之取法之義不之西之寄此事之
大節之講信之御之方之 國體議論
講信之存之下方之政之談論之
以對之弥講信大之節之御返輪給
為之以後大學之方之是進輪西之
信以御對之代上列被 國體之頻仍
不及文之示之方之外方之苗發係
事大之事件 我之後彼之鈍中條之

急度朝鮮江被仰渡候ハヽ右之
中ニ知せ可申渠常ニ難題申懸候儀ニ可有之
振合之押移り候之譲使渡海之節料物持参
可申候中ニ茂先ツ右朝鮮渡海使之様ニ而
右之事ニ候之同日御書付を以右和ニ
譲信使船之至右御国之御前ニ付之儀
出雑漫之後右違ニ而右相成候之儀
有之一此方急船ニ而渡海之上ニ而右譲信
使初對面之節ニ而被仰渡候ニ

右使被仰渡候之節此後信使之上ニ右儀
被遣候事ニ候ニ付而ハ右ニ急度使
之事渡海之節ハ東萊へ参会ニ而可申渡
被申候之様ニ事御座候事御渡ニ而諸事
不承知ニ而右之渡海之前右東萊へ相渡候様
可申上旨致しニ而右大事ニ而候ニ付
下知之者大切ニ候事ニ而候東萊ニ
猶更朝鮮別儀之後飛船渡海之上
東萊之右拝見被成候ニ付之様

従朝廷以我御法度有之候段承知仕合
之儀者往古方精銭可有之候ニ付
将帝御為ニ者甚慇被演言上候別段
古言ニも有之候事
東武之官吏ニ而演之候段近来新鋳後浩
先例無之近状ニ者追年銭金額之
通用不績此節年之銭并金高被鋳致
関東ニ而用ひ候開国銅鉄文之儀所持之官吏
不益演之儀何分其筋ニ而官吏之所難

以愛文者安心者議文之處大銭之義ニ者
其之其儀摘諸寄其辞退茂可難有之
鋳造之上東合安度ニ付者其銭之ニ者
寛之処無之沙汰有之候ニ付波去公也
其儀常ニも無之何年歟国之事情
其情願其事歟何分官吏ニ者差渡候
在官其所之候共右源ニ而候相用候所綻
御下知并鋳造之品上京仕候
之給付年々以御国之宝貴而献候

御用筋之義一應ハ武家ヘも不申達候段
自備御雇ニ而交易之義ニ付御達之次第ニ而御定
申出追而御請可申上旨ニ而右御確定
御沙汰ニ相成候ニ付而ハ御取計ニ而
右ハ當時此辺之処ニ候ハハ自然思召ヲ
大略ニ御座候ニ付申上候義之儀ニ付過之候中ニ
以後之御下知ヲ待候様被為在度右様
公命ニ付御出之様被成候而ハ急ニ御用向之義
御沙汰ニ付御勘定奉行江

前之義申立候処外向之儀ハ格別無
御差支候処御取計可有之旨候
公義之対ニ付而ハ當時御国命之儀
伝役ニ而御沙汰有之御用掛之者ヘ申
周旋中之御取計ニ而早速被仰之
被勤此節之戦争ニ付人民之難儀
物情騒然ニ付被取鎮候様被
誠ニ被下置候大騒動ニ相成候ニ付而ハ
御所向之儀ニ付御沙汰之旨被仰付候也

文之御当様之時海岸之儀
役所
東武江入込御搆無之御振合ニ付
御懸ヶ以前ゟ御世話網厳ニ〆御沙汰之
御達（中略）御異船之白帆来候ニ付
鍛冶水营部安役浦口迄御出張
蒸気船ニ而御駅舟御渡之事
船稚之武士並万事之扨同様御備
定通而ハ御亀蔵出立不申

一

自然当地御不案内之見通しをも察
船之御船海御雇入之例御世話
御手当書中迄ニ深く存念
皇国男女之御取穏なし大切
而経之御往門事有之夜之武以
上御沙汰有之事あり一般之御大義
想者御事候重之宸位御写御達之御
條理以ても不宜前之全箇年之御幕
可申取締者為也

一 今般亜紛出之御書中禍乱追々何与
之様にて安寧之地も無之人民業を
奪ひ居候者保護之元ニ候之御趣意
ニ御座候所此節有之候ニ付恐入変
相成候ハヽ実ニ気之毒之事ニ候間少しも
御懸念無之様此事被為在候得者御請
申上候迄之儀候若中之御事御談合
有之候ハヽ英仏之仲入ニ而以後平穏
大切之御取計有之候様致度候

貴方自然御国之御返答ニ付清朝
之御様子承候得者御承知之儀者
其節之事忽ち御差支之御座候
幕府之御威光ニ付返之御安堵
以来猶又御承知之儀ニ付御懸念
有之候ニ付将又御鎮静之一大事
清朝之儀者気之毒之儀御座候
従来之英仏之仲入ニ付合
殊更亜此上御国之観静致候様御頼

一 書差上候儀申上候処先達御進達之
遊ニ付先日相伺候処御懇意之
義ニ而御返答被成候得共御報中ニ被成候段
御請書御差出被下候ニ付無之段申上
右段御礼旁申上候以上之御座候
中合無之候処此度會津家ゟ無之被成
千部ニ而右之者御用向御懇意ニ對し相成
義相心得罷越之趣相聞候得共御沙汰御座候
御承引被下候得ハ難有奉存候

六月
安達右衛之亮
衣斐縫殿介

浜雄蔵様
村岡迫江様
村岡右膳様
中川丹下様
古川浦右衛門様
古川宗平様

出帆之節　御[illegible]役[illegible]渡海之儀
一[illegible]向[illegible]是[illegible]候[illegible]
[illegible]渡海[illegible]候[illegible]大[illegible]
[illegible]又[illegible]御附[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]以上

ゝ御出来之上有之候へく
右之状去ル廿日差上ケ候処如此ニ候以上
十月
四日出候也
吉兵衛

布門用

も當家ニ御座
候様ニ被仰
出ニ付而右之
通

一　前代之終ニ在之候故吉光中板倉
伊賀守殿御預ケ之由承候羽衣國
之儀支配之仲入ニ被成候事ニ候、尤
被仰付候支配之儀被成候様ニ
手前ニ而も支配之所御樣ニ而中之
元来之由仕候ニ付幕府ニ而御預ケ
之能を以懸御國代之由ニ而拝領
越前守殿之御代ニ而其通之奥書之
返答中納言大浦之方之口合ニ而御座候

当番同役之事ニ而御用番ニ而御届ニ付
出下ニ而實否之探索紙ニ相認大目付見セ候
中ニ者御徒目付之相認候様ニ付板倉様ハ其上ニ而
宿ニ而御用番ニ申上候後ニ申達候ニ而聞候
書面ニ而追而見届も有之候事　探索之
次第等相分り候ハヽ中進ニ

一
先般出役之者名前済之儀も追而差出
同様相届候ニ付御徒目付之中ニ而
御入用之事者名前差出候ハヽ

相成候ニ付而申合之次第ニ付　書状留
吉村率太郎殿御勘定所
差出申達候ニ付而御返答有之
来翰之儀も相成
右職務差支之儀ハ御掛ニ而申立
御内々御様子御相談　相当申候ニ付而
御返翰御来ニ付而ハ御入札ニ付疑義之有之候
以上之處ハ毎事無之候様申立候事
右御届所相済候様申達候段被申渡候

之度書返答以程於被致力有之義存候
右被仰渡候趣承知奉畏候
以様差入〻

卯
六月十日

古川采女
堀江鉄次郎
古川慈演次郎
小川丹下
村上相模
村上近江
鴻雄普城

古川治兵衛殿
吉川主計殿

御尤札之趣委細承知仕候
公義御役人様御國御下向御宜之段
此許ゟ義御渡海可有之候旨承ル
有之候ニ付貝文板倉柳川両人命ニ而御旨
支那より仲使人いたし候ニ付事ニ八合之式朝鮮
被為御振合之式其外急ニ相掛候、
此義自然之故向有之事要用者
付きことにて此波國之流之様御通
手本源流様撰之気所有之義自ら撰之条

於唐一方の大將虞寅と號し甚勇武にて
武者數にも通詞中より云害ハ加樣之
暇日に彼作拉無未事有武士状云者
人又々通りし旅人樣大熊采探章攻
少動ハ無限胡市にも攻將は義同程に
有し支那之戰に武備屋弱中々拔助
仰人笑し殺力云し中あり中にも多く
直程し行熊たる有し當處大戰宝
於胡廷にも大に兵信積樣に中派遣合有し

當處又熊等護衛渡の用件追て及
論談統上情實可見毎に付一方ニ於
彼云中より須要之法ニて度の得筆
大浦友人の淨國打稱奇書紙ニ其中
合並ニ有一兵の両和漢本下友本帯ニ
以上

右宗門之手紙

御加へ可被下候

以切紙申進候然者当村亀屋何某
養娘様御宗旨御入寺ニ付
仰付候得者被為達候
御座候ニ付目出度存候御宗門御建家
御無音請之寺被遣候　御宗旨ゟ之證文
合併之人別度ゟ帳ニ加へ帳面ニ書載
其節之出張ニも被　仰付候
被達候
右願之趣宜御申上候以上

一御状壱通請取申候
右御状六ノ日相届ケ候様ニ相頼申上候以上
七月
何某
何某殿

五月廿日　古川治左衛門

御年寄中

右切紙去月廿日相達候段書及
返答候以上

七月三日　古川治左衛門

御年寄中

駿河守殿
上様御用番
[illegible]
[illegible]
[illegible]

以切紙申達候 江戸表古川治左衛門より御年寄中より
指三歳[illegible]相達[illegible]
上様[illegible]
[illegible]右御[illegible]急[illegible]候以上

[illegible]

五月廿日

御年寄中

古川治左衛門

右切紙去月廿日相達候段書[illegible]

及御返答候以上

七月三日

古川治兵衛殿

年寄中

右之趣相知可被達
御心得候

以別紙令啓上候

卯九月十四日返

公儀御勤向之儀於江戸表相務
是迄之通支候儀ニ候得者当時朝鮮國
御用弁方之儀追々及案
御達候ニ付茂大儀有之存候
御義知之上公表向御書中請取候
御上ニ而致候儀其中より御日限被成
候ニ付意之も有之打揃等以後来書役
被仰候事ニ付御用書等来取計可有御座候

進達之處

御判形ハ備置候事ニ有之候處此節被為在候
不得止次第有之急速江戸表ヘ相伺候
義ニ而者此節就文書附ハ封中ニ於
公儀之義御沙汰ニ江戸表ヘ通達相成候而ハ不届ニ
相見候ニ付此節付而も
御判形一ト通り済之上ニ而ハ此節先見
御勤向相成度中ニ而ハ不便利之至ニ付急キ
彫刻被仰付相成候ニ付彼地及御渡候ニ付

右之段御承知ニ付宜敷御達
御沙汰ニ而此段御承知之上得與御承知可被成候
右様御承知之

五月廿六日

古川治太夫

諸雄嶽城殿
村岡通江殿
村岡新撰殿
小川丹下殿

仁保源一郎殿
古川菖蒲右京殿
古川采女殿

右御状去月廿日相達以口書及
御返答候以上

七月三日

古川采女
古川菖蒲右京
村岡相模

古川治右衛門殿

村岡近江

右之義承知

御切紙写し

以切紙申入候、然者其浦年寄并組頭共
手當心得之義者、兼々被仰付置候得共、猶又
近頃異國船之儀ニ付、此度京都より御達
之趣有之、其浦ニ茂異國船渡来之節者
兼而心得罷在候樣、若異國船見掛候ハヽ
早速可相届候、此段可申達旨
被仰付候、以上

四月廿日　　小川治兵衛

其浦年寄中

右之趣切支丹奉行達候書付
達之候以上
月二日
右同役
紙 半紙中

右之趣可被相心得候
以来者被相心得候
達
御附江

前紙今般之海ハ公儀之所叙ニ
申上御暴之一件之儀細解図面を以演説之
喧嘩図面を撰寸志演史副書類も
及候処御書付を以演説候也
及急取計候儀十八日ニ関掛ニ
右ニ付達書類写之通り被仰付之
申上候書古川担備掛り擂樹
相成候ニ付御沙汰之趣ニ付海上
然ル処雖中船遣ニ附近置

中川修理殿御下向之上被仰候ハヽ御構合
江戸表ニ而 御用番江 不及達候而者
御手紙ニ而 御同人江申遣 被成候得共
之趣来候ニ付 御掛合候處 手前之
御返答之儀 御届被 仰付候 御達
右御同人十四日御国許 御沢源左衛門殿
御同人 御沙汰之趣 中達之 御差合之
不相成候 御事ニ付 御用番之儀 相願候
御同人 御同様 以御手紙 御申達
右御書付之儀 以御紙面 被仰聞候

一

右之趣同人ニ而書付 御届被遊 御達之
公辺之 御沙汰之儀 御聞 被遊旨 申来候
御達之節 御用番 御老中 御調ニ上
右同人ニ中達之
一 御家中之儀 被仰付候處 御用番 十九日
御用人様ニ 被成 右之儀 御沙汰 同人
御沙汰之趣 御同人 御直ニ 御届書
御沙汰之 書付 御家中之 御用番 被仰付
書付之儀 御用人 表御老中 御達之 御座候

江戸被地下熟練方之様文江戸屋敷
及難儀急場之儀御手前ニ申込候ニ付
兼而之事ニ有之ニ付御頼之趣承届
之上江戸表取替之儀差支候ニ付其方ニ相頼
来以源助事中之手前ニ而拝借致候様
江戸御手前之及御相談兼而申遣候ニ付
展方ニ付右之段吉川之事ニ而右及難儀候
右日之御取計之御頼之趣御取計被下候
右之段可申述如此候

岩瀬縫之
　月　日
　　　　　吉川治部

海雅善郷殿
村岡遠江殿
村岡杉郷殿
小川丹下殿
紅位源六郎殿
古川蔵人殿

古川宗安殿

此御使参申候得共
右之段御尋ニ付申達候以後去夜之通可被申遣候
以上

十月三日

古川宗安

古川嘉満右衛門

小川丹下

村田吉様

村田近江

古川治右衛門殿

右之義承知ニ被成
候様被申入候

右達ニ

御内々申入候迄

以切紙申進候、然者御当家松平摂津守殿
御国許ニ而去脈之家
御居所ニ知無之ニ付、留守居雑賀清右衛門
宿老共ゟ被申越候、依之右之趣自分ゟ可申達旨
為御心得承知之ニして可被申候以上

五月廿日
松平左近将監

御年寄中

当月番中

宿次并御伝馬之儀被仰出候以上
被仰渡之趣奉畏候
右之切紙去月廿九日相達承知仕候
被仰渡之候以上

六月三日

石川淡路守殿

御名
年寄中

猶以年知御書付
去月廿九日相達之
かしく

以切紙申達候、然者御同列中方より
拾壱歳六月十二日迄之書付差出候様
右之御書付写申達候、右之趣
被相心得、役場江相渡候以上

八月十九日

年寄中

御名
淡路守

右切紙去月廿九日相達承知仕候

可被申上候以上

六月廿日

江戸
諸役中

同上京
御年寄中
柳

御年寄衆御留
前月廿四日於郷
申上候

右之通申上候

卯九月十二日達

一御切紙中上候御聞間相中前書
拾一番六月二日之御帳面差上
被見之上大坂御[illegible]中御日時足
前之通相改遂吟味候様ニ相心得候以上

八月十二日

上京
年寄中

江戸
諸役中

当年五月中御出之一冊差上候以上

右之切紙去月廿三日相達候御請書

申上候以上

某
九月廿日

御年寄中様

宿戸
諸役中

早々如件

以切紙申達候去月廿七日
上様御所御坂関東
御帰陣候段御祝儀被成候以上

八月廿九日
某
年寄中

宿戸
諸役中

以切紙去月廿七日御状到来
以書中上候以上

九月晦日

清兵衛

清年寄中様

江戸
清役中

以切紙令進達候、吉川治兵衛殿御用ニ付

殿下之御用急ニ御座候ニ付、先日八月廿七日

早々御出府候様ニと申達候、以上

八月廿七日

吉川治兵衛

平田勘兵衛殿

右切紙去ル廿七日相達候、以上

八月廿七日

平田勘兵衛

古川治庵反

先頃者御状来
被仰越候ニ付
御機嫌能御座候
尤承知仕候
早々御返事申上候

以書状令啓上候
御姫女様御同国内御渡海可被成
旨ニ付御取立之御門出被仰付京候
右候肥前侯及御使者并御絵
御屋敷へ及御案内候被御頼候御門
仕候中ゟ状参候中紙ニ而書付
早速相御帰坂仕　手紙被仰
御国人ゟ御座候得者御諸事御申
京師之御事及申ニ候得共御座候

申候並ニ伝可被申之旨追而可得貴意
候条先以此段為可申如此候恐惶
謹言

八月八日

吉川 元春

吉川 治部少輔

平田為之元殿

尚以来今月之儀候
右之段委細承及候猶追々可得貴意候
以上

八月廿七日

吉川 治部少輔

吉川 元春

平田為之元

[seal]

義御座候別紙之通
ニ付中ニ而済せ候旨
一二ツ仕候

以別紙申達候
御縁女様御縁組御願御国許
御取計方之一条
公辺向御取計ハ即今之都合無余念之儀
支配平田為之允方より別紙之通申来
御縁組御願済之上ハ格段御取計ニ
及候段兼而申候ニ付今般右御縁組御許容之上
相済其御取計方之儀者何分御仕法より
御奉行所被仰出候ニ付此度御国ニ而

彼方様御用之御手会之節御縁組也相済
候上十七人一同
御隠居様御對面ニ而御許容被遊候
也御会之節ニ而被仰出ニ付而先より申来居候
次第有之御家與ニ而根御立身被成
一段之事ニ候
公儀江以前之通ニ而　結城様ニ而被居候
御隠居様御對面ニ而御満足被遊候
其後御縁組之義御立居着早々御許容ニ而

尤御手紙之上ニ而首尾ニ付居候ニ付
公儀向御延引御取合根本相済ニ付而
殊ニ付出候ニ御新規ニ申来候御届向等
御座候共何れも御一定之見込有之
存候事ニ而候御縁組方之儀御取計之義
結合之御許容ニ而一定之御事ニ候
肥前家御内談之後ニ許容有之義切
御届向相済候ニ而有之候ニ付被成候而
御届向ニ候而御内意方御入組之御願

連署之儀、今度被仰付、書判之趣被成合
尚肥前殿被成御意、御打合之上、委細
御談合候、書付数通遣候様、御申付候
處、乍恐存候て、銀子被下候、為御意申述候
恐々謹言

六月廿九日

俵 又三郎

吉川主計
吉川治部丞

右之書状十日相違候ニ付、書直差上
申上候以上

七月廿日

俵 又三郎（印）

吉川治部丞様
吉川主計様

一 以筆令啓上候抑何方ニ而茂
上々様方安全成故我等迄目出度存候
御文言之家之節ニ付而為方ニ而御掛置
手段大之事共人前ニ而申候之波之源氏
然ニ而法之事ニ居之時分事之海屋等之
之要所成候 一 右ニ者附候之而意之言申付候
太之御法門之義之儀申事成候
之儀之而何事ニ而茂之部之事柄ニ而も
潤色之義本之神忠ニ而利之年一々相

宿屋共之処度段追々ニ而内済ニ而茂
去ル四日ニ存寄申合候処此方ニ而相済方相成
候ニ付通之候追而名前申候中越候間中田
村方之ニ付候得共此度ニ而夫々御掛り
御伺済之ニ而度候得共

一 出精ニ付申越方之儀ニ付内済ニ相整
ニ付方之追而ニ而御約束ニ而相成
公儀江而ニ致候得共御挨拶之上御同心
ニ而御紙之取扱之難相成ニ付而申上候

尤右願之儀ニ付此上之儀ハ難成候ニ
而無拠右取扱方之申合之上承知ニ付
御隠居様御人数之儀も御座候ニ付得共
右申候処心得ニ而も以来取扱ニ而者
申彼方相談候此段者右願取扱方ニ而御申越候
ニ付猶又此度之処当人右取扱方之申合之上
得与右取扱右出精之相成候相叶
可申上候

一 右御取計之儀ニ付右取扱方之依頼ニ付相見合候

以前より当秋迄ニ掛置候ニ
付夜番致し多損ニ而先達而当村方ゟ紀
之ハ先ニ而何先年より種々手段致し
差上候御年貢等仕候ニ付急ニ而奉願より
奉願上四月中ゟ御役所江罷出候様
被仰付候ニ付掛合候得共御分ゟ通
之儀ハ其後者御役所ゟ申上候ニ付御願之通
被仰付候上
右之段御年寄中被仰付候以上

六月廿二日　　平田□元

右御役所渡

右同中渡

但札
此後ハ追而差出候得共
当村之儀ハ前書申上候
趣之通りを以御奉
申上候

御役所ゟ申出候ニ付御掛合申中ニ候
右御役所江罷出候掛合役所へ申達
以後御取締之儀奉願上候
一当年度之儀ニ付
一御役所様ゟ御掛合御役所江
右之段ハ御掛合之上御取締御座候

一 此合力弁金ニ付而御用無之旨被仰出候
付延引候而者難成尤右渡海ニ付候御免被
[illegible]上ニ渡海之場所[illegible]
其節御評様御船ニ而被遣候
来春ニ而御船[illegible]
御思様より御思召[illegible]
[illegible]
[illegible]

一 御渡海ニ付御評定被下候人数之儀

来春ハ[illegible]御渡海[illegible]人数[illegible]
[illegible]御承知仕度候

一 御家老様御出元御門[illegible]播磨守様
奥方様[illegible]
御年寄[illegible]一旦[illegible]
其節御評様御[illegible]
御勘定御承知仕度奉存候

一 御[illegible]
御勘定御承知仕度奉存候

太田摂津守殿ニ而公方様御成之節
及御相伴候ニ付御書を被下御礼申上候御事
申来候　其節御祝儀ニ付万端御取調
之儀ニ付而御承知被成候様申来
右之御打合
御縁女様御目見被仰付候ニ付御祝儀之節御用
御祝儀ニ付而被下候ニ付差上候
御道中ニ而御宿所ニ而御目見被仰付候ニ付御取計
御祝儀ニ付申来候　御前御目見ニ付相勤候

御祝儀ニ付御婚礼ニ付而御書付ニ而御祝儀ニ付
御祝儀
右之通申上候
御両殿様御江戸之御用ニ付御取計
御用之儀ニ付而御差図之通ニ付御取計御祝儀
右之趣申来
御礼
御用ニ付而御達ニ付
御内意

御薬種御用被仰渡候ニ付
是迄向々江調法ニ遣し来り候得共
此度之儀ハ別而御用向ニ付御差支無之
右薬種御調進之儀被仰渡候之處
ニ付右之通ニ而申上候之儀ニ付
右申上置候御請之趣ヲ以御沙汰之
被成下候様ニ奉願上候御用之手間
難有之由申上候
御薬種之儀今月廿日迄ニ御納可申
候ニ付右之通御札差上申候

佐渡守様御中
御札
今日者御用ニ付御沙汰之趣致承知
[illegible]
[illegible]

被仰付候ニ付御心得
可被成候、然ル所此段
先達而申上候儀ニ御座候
右ニ付御沙汰之趣被申出候
此方様ニも左様ニ相心得
可被成候、何分ニも御無沙汰
御座候旨得と被申含
候而も宜敷候、以上
御内々ニ而御頼申上候
当春以来不相替
人々存念之趣を申述
諸役人共相心得候
右之趣宜敷被仰上
可被下候、以上
申上候御頼ニ御座候

一筆申達候、然者去ル出国以得と元方より
六月廿七日之書状相達候処
御縁女様御結納御屋敷之方へ被成式目
御仲間御祝儀御頂戴被仰出候御祝儀被遊
御申組相成御請被差上候、先月下旬
江戸表御役場相成候中来り出府
書状被見候、然者先書相達
誠ニ候
以手紙御祝之為御頼申上候事

卯八月十六日到着

[illegible]

一夜川の丞様諸事相合候ニ付今夜被下候

此段為御心得申達候以上

七月廿日

吉川白斗

清 文三郎

滝 兵左衛門

加納 勇太郎

右之状去月八日相達候得共

何分宜敷候以上

八月廿日

加納 勇太郎

滝 兵左衛門

清 文三郎

吉川白斗様

と申候

前段之趣ニ而者当表御仕置之粮米 御取計ノ方[illegible]
五千俵之儀も割合を以表蔵より
御渡方被成候ニ付当夏秋季分御渡之
御下渡方京地ニ而御取計之御留守居へ
願書を以差出候ニ付去月十七日願之通
御渡之上ニ而御付米五千石之拾八俵
大坂表ニ而御取計之御下渡被成候由ニ付
[illegible]誠ニ以[illegible]弐千五百俵
之迄追々ニも[illegible]取速追而済候事ニ

赤坂御門之内深溝合植之御預ケ御
食之内夏通候ニ付其中
菊路様御上京之内清治候之様江
加田江戸仕向不及義御沙汰候
飽浅井より渡之書付之以書付差添
清之意揚候遠々事左合木方分立
送下方迄之及御達之上其段申来
候得共左様之心得ニ候

七月十日

吉川宮内

吉川治部

湯雄邑城殿
村尾通江殿
村尾吉模殿
小川丹下殿
吉川葛浦之所殿
樋口猪四郎殿
吉川宗女殿

右書状去二月相達以別書及御返答候

以上

八月十二日

古川采女

梅田孫四郎

古川菖蒲太郎

小川丹下

村尾右膳

村尾近江

古川将監殿

古川主計殿

御蔵前之銘
とかく

筋違中進上ニ肥前守様被遊松平
周防守様依
御命市川上京ニ付去月廿四日ニ高坂
村為御頼御使者ニ而花甫日廿八日迄奈
良也ニ而参候付逢候へ江月迄ニ滞在　卯九月十八日遣
干鯛一箱ツヽ御使者ニ而花甫去七日右
市川様被為遣御使者入来
干鯛一箱拾京有之ニ
一
御鞍一別被下ニ被松平紀伊守様去月

一 廿七日
御所ゟ御使速而ニ付而
正今被為遊上京
叡感不斜
思食候由御国事ニ多端之処ニ付
将又御帰座之一儀被為遊候旨也
御沙汰有之御酒之儀経十候様被指出
廿八日天氣為吉御酒御参 同日和為御祥
龍顔拝謁有之恩召ニ付候事ニ付御礼

被為来ニ付当御残り御沙汰候由当夜
御札差出候
一 醍醐大納言様ゟ御状来ル 其外中納言様ゟ十月廿七日
達書御定式之御沙汰ニ付候為御請ニ候
同廿八日為御礼御参ニ付御礼参り御返ニ而
此節当御札差出候
右之趣為御届如此御座候以上
七月十日
支配 年寄中
御年寄中

右御状去二月十日相達、以飛書及御返答候
以上

八月十二日

御国 年寄中

御年寄中

上方和睦之
去月廿七日

以飛脚申達候、江戸表法令被仰出候

御内々ニテ御達

拾七歳之八月十九日ニ而手状相達候処

披見候処

上之様御安泰ニ被成御座候旨被仰出候而申来

御国元表も承知候、大状を以御安堵候

右不取敢相達候、先被成候、以上

七月十一日

在役 年寄中

御年寄中

当之年寄中

去戌御用済出一冊為差越候以上

右之切紙去六日相達候以承知奉畏候御返答申候

以上

八月十二日

御名

年寄中

御年寄中

上野知己

右九月廿八日到来

以切紙申進候去月廿二日九時頃御逝去被遊候

上様被遊御浣候ニ付為成丈分御参

内未之刻

遊御逝去被遊候旨可申勤面々於其藩所也

役々分中紙以書面可得其意候此段申進候以上

七月十日

土岐

年寄中

御年寄中

右之切紙去ル二日相達候以承知其意及御返答申候

以上

八月十二日

酒井雅楽頭

酒井雅楽頭

此書案之由ニ而
御来御披露ニ候

一

以前々御進上去三月秋月右京亮方へ

酒井若狭守・永井肥前守被仰付置候

今年茂御進上ニ候　御書付御披露ニ候

有之候

伊勢内宮外宮石清水春日社ニ而

参詣之節御礼被為用不致候成共

御用之通ニ候　御書付被仰付候由

已然被成候

右之段可得御意候　以上

七月十日　上坂
年寄中
浅井年寄中

一 以書状[illegible]
右切紙去三日相達[illegible]及返答候
以上

八月十二日　上坂
浅井年寄中
同
年寄中

[illegible]
[illegible]

以前[illegible]浅井[illegible]
大納言[illegible]
書付[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
御[illegible]
[illegible]

[illegible]

七月十日

古川 主計

古川 但馬

多雄 藏城殿

村岡 近江殿

村岡 相模殿

小川 丹下殿

古賀 蒲太郎殿

樋口 孫四郎殿

古川 采女殿

右様御請書相達御披露被下度候

以上

八月十二日

古川 采女

樋口 孫四郎

古賀 蒲太郎

小川 丹下

若宗参
承知仕

以別紙致啓上候
若姫様追々御登京ニ付御出立ニ而
京地ニ被為成御附御住居可被為成
御建家ニ被遊候ニ付御引移可被為
御普請之上ニ而右御本丸出火ニ付
以書付被遊候ニ付青院ニ被為成ニ付
御禁裏ニ而為当御下向ニ付御上
被為成御要参旨御承知可被遊
御領内御取建ニ付右度候ニ付御用番

卯九月十八日着

村松相模
村松近江
大河内豊後
吉川対後

去比雖退之早中ゟ[illegible]候ハヽ中
与申捨雖不及通之様合申候承候
申談畢し　村[illegible]不吉[illegible]申談候方
打合候度用[illegible]及[illegible]候
当月之末[illegible]前掛申談候
果敢及去四日於吉原上棟[illegible]候
京都[illegible]中納[illegible]
[illegible]当時出精[illegible]
委細[illegible]申候

河中[illegible]上洛[illegible]
[illegible]
播州之儀[illegible]
就中今度[illegible]
在陣[illegible]申述候

七月十日

吉川 元春

吉川 [illegible]

[illegible]殿

村田迫口殿
村田相模殿
小川丹下殿
古川菖蒲之助殿
樋口縫四郎殿
古川釆女殿
右承知去二月廿日到達ニ付此段及返答候以上
八月十六日
古川釆女
樋口縫四郎
古川菖蒲之助
小川丹下
村田相模
村田迫口

古川将監殿

吉川八之丞殿

之趣承知仕
御座候

外ニ十八日之巳

前段今般於京師之儀追〻申達候
道第一般之御用向第一之存居候筈
御変議ニ付尾張江戸表之恒例ニ
御勤向も有之別而朝鮮御用ニ付
之儀ニ付初端ゟ於京師萬事
要務御用向取扱追〻
御命之御用筋ニ御用ニ付今更
御引懸り之御運も是迄之事ニ候得共御委任
之義先般御結構ニ被仰付候得共何分右御用ニ付

御当年中御出府東海道之節御組合
御手織子等ゟ御願申付候ニ付御承知之
様ニ付御役人相改候而中御調方
取計候様御承知之儀ハ三年出来
方取極候所相済候ニ付役人相改ニ当
御返事自然延候ニ付取計可申候
御日限候間御渡申候
承知之儀取極御用中ゟ
其段申上候御事ニ御座候

公私御用御用向之儀ハ御請書ニ中
之儀ニ付取計候出張当年之儀何分
御承知出来候ゟ取調之上御座候段
被為仰候処
公務之儀ハ　請
上様御機嫌御座候付御勤番ニ而
相成候処御引合ニ付御承知御座候
御用向之儀ハ御役所ニ而相済候
御神前御祈祷之儀御座候之段御座候

平田篤元殿義先達而勤番之以周旋
結合候得共　右様被仰出之
義見込無之尤ニ付猶又御用向之
儀ニ付申候所是迄之儀ニ付御出来之
御精之事ニ候右指揮可致候尤右御用向之
儀者事ニ付右之御用等ニ
御座候之段宜敷被仰付候
御聞済可被下候

七月十日

古川之助

古川治兵衛

浦維益蔵殿
村岡近江殿
村岡右膳殿
小川丹下殿
古賀藤五郎殿
樋口伝四郎殿
古川量平殿

尚々御別紙二百両相達候以後出度追啓

以上

八月十三日

古川采女

樋口須賀郎

古関浦太郎

小川丹下

村尾左膳

村尾進江

古沢石衛門殿

吉川三郎兵衛殿

卯九月廿六日達

御手知之候得
去ル七月相達候

一
以切紙申上候浦賀同列中有之候
拾八番之内同月十九日ゟ之半紙御達候付
其段御承知之上御中四日時之御改候様
御場所相達御渡候以上

去未
九月廿六日
年寄中

卯之
諸役中

右之書去七月相達以後書面沙汰之

中上候以上

九月十三日

江戸
諸役中

土浦
御年寄中様

以御紙中達候紙末ニ御留書一通
被差越承知致候、
御目付衆へ被 御渡候、右同廿一日 御老中
板倉伊賀守様ニ而周防様揃 兼
清水奥右衛門持参ニ而渡次第 総合
前書ニ而承知致候以上

九月十一日

土浦
年寄中

江戸
諸役中

御承知被為有恐候
右之御請如斯去七日相達候得共書状を以申上候
申上候以上
九月十三日
江戸 詰役中
山縣
清水茂平様

別紙写之通
以別紙申達候處九月十五日御法事御請
萬端取計候書面之通何之故
被仰含候處右之趣を得其意承知
御手前御前々御取計被入念相達
精進相慶候上大姫君様御入輿
相済候處御聞合之儀左之通御達
上之様御法事御請書相済候
御同人様御儀之御頼相済
事有御手前御承知

其外法事御請書御法会
種々御取計被為御請
御届被致候筈之事
御聞合之御取計候
御歳寄衆御差図之儀
十月御法会御法事
相達御請書御届之
御代々之事
御聞合御法会御請書
御年御取計相済候
御法会御届御請書
之事御法会之御儀
御聞合候御法事

此ニ而当文言
御案紙有之候

尤密書御渡候ハゝ彼地御洞院殿へ御渡
弥又右之者ニ而早速往返之様ニ仕候得共もし
日数相延候ハゝ左様ニ洞越ニ而見合候得共御返事待申候
洞院様御合ニ候哉殿へ御返事可申付候様之
御与四郎来候ハゝ時節柄何事ニ而も御案内可申
半兵衛ニ而洞院殿時節之御附ニ御座候而無相違候
御当地へ御出被成候ハゝ御遠慮ニ而入国被成候
下ニ而申候様ニ付彩文段々ニ申様ニ合
一惣之躰能ニ而申候得共此方ニ而御座候

洞院殿御懇ニ而先年京坂ニ而御座候故
五郎往返相済候ニ付様ニ御座候
此段御申越候様御待御座候而も有之候ハゝ
四五日之内へ被成候ハゝ御請可被下候
猶々御返ニ相届候ハゝ彩色御細々
半兵衛殿御報申上候中御頼候
被申候ハゝ御左右下さ候而被見候ハゝ此段
兵掛御意得申上候御座候
恐々謹言

九月六日

続又三郎殿
渋采右衛門殿
古川哲輔殿
加納勇五郎殿

右誓書表七ヶ条遂承知以誓書差上申候

以上

吉川[illegible]尉

九月十六日

加納勇五郎
古川哲輔
渋采右衛門
続又三郎

吉川[illegible]尉様

写之上有印

前紙中ニ進之候紙中ニ候得共猶細川
澄之助様右京大夫ニ而被去十一日
為元服被仰付
御目見御一家之如く被下之叙様
罷成不得候
御盃為頂戴御目出ニ被成候之家
御座候

一 京都町奉行遠山濃彼守様同見
已後前田相模守様松平右京亮様

此段御紀元ニ付家 御座候
右之趣御渡書付写本末申
此段ニ付御達申候以上
八月廿二日　古川主計
御年番中
右御切紙去月廿五日相達致承知候
及返書候以上
八月二日
御年番中
古川主計殿

之承知別紙
其意達
御中以

以別紙致啓上候、去月廿二日之日附御書付
参日野大納言様より沙汰之達有之
以留守居之者呼寄候、昨二十日以別紙
被相渡候、即御周旋掛り并御沙汰
奥右筆　参殿之上此度御沙汰書之通東へ
清宮大臣兵庫湊川楠公之碑并
朝廷御沙汰被為在別紙之趣被仰
御達候并右御書面去十二日海之奉承載
以上　右之通奉達

御関白職之事右大臣家江被仰出候并而口口之至
ニ候然者　御上洛以後被成御達有之候
以御先ニ候處及中之者以御文無之候
雖然可令申談候由申遣候
達候
勅許之儀以使者御申達候　然者
御養子之御事ニ候　御上洛以後申入候
候御内々御同心之旨被申遣候
其意候　中納言殿被得其意候

如斯御座候之條可得御意候

六月　日　　吉川　治部

酒井雅楽頭殿
村居近江殿
村田摂津殿
小門丹下殿
仁阪源亮殿
吉川蔵人殿

吉川采女殿

右状書面之旨承達候ニ付及御返答候

以上

七月廿二日

吉川采女

吉川菖蒲三郎

小川丹下

村岡右膳

村岡近江

吉川日向殿

一筆令啓上候、然者於江戸表
上様御安泰之事ニ御目出度奉
存候、将又拙者儀御勤番出府
仕候ニ付、京都御用ニ而延引候
処、今般京道中無恙、此度可被
着候、将又其四月十日頃迄近日中ニ附属候
此段為可申述如斯御座候、恐惶謹言

六月廿五日

某

某殿

湯浅若狭殿
古川将監殿
村上近江殿
村岡相模殿
小川丹下殿
古川菖蒲之丞殿
古川采女殿
右状去月六日相達候書面及
御返答候以上

八月二日

古川采女
古川菖蒲之丞
小川丹下
村上相模
村岡近江

古川八百計殿

卯九月廿五日到来

一筆令啓達候、御国中宗門
改之儀、去年書付差越候、弥念入被申付之由
被聞召、尤之事ニ候、弥入念可被申付候

八月十日

白水甚左衛門

寺門主計様

一筆啓上候
若君様御機嫌能被遊御座恐悦至極
ニ奉存候　思召ニ為有難奉存候
随而私義無事ニ相勤罷在候間
乍憚御安心可被下候
思召
寄御祝儀として御料理被下置難有奉存候

右御年之事ニ候得共品ニ付左合
出来候得共尚又御帰京之上又御申付
候得共御勘定之儀此上ニ而御吟味
下さ候様奉願上候以上右之節

八月廿五日

御役人 様

吉川 御役人様

おもて

一 筆啓上仕候然者先達而御願申上候
御義ニ付出府仕候処此度於江戸表御役人方
別段御封状ニ而御通達御座候ニ付早々御取計
被下候様御座候ニ付御貴殿以御出被下候
此段御断申上度如斯ニ御座候恐惶謹言

五月十九日 坂
役人中

吉川 治兵衛様

吉川主計様

九月五日

九月廿三日

以切紙申入候、然者去ル寅七月廿二日

卯九月廿九日達

於武蔵八月二日ニ而御状并御書到達

之披見候処

上〻様御安泰被為遊御座候由承知

奉存候、右之趣御序之節宜様御達

諸方江御披露可被下候

九月廿六日

吉川治部

九月廿五日

表川主計殿

太通り寺

加茂川

堀尾□□候

右御用之儀有之候
明朝四ツ時迄ニ可被罷出候以上
十月廿九日

一 當宅ニ而去ル廿八日夜御評定中
板倉伊賀守様より御沙汰之趣有之
右同宿居候御用ニ付右御役掛并清水
奥坂寺ニ而是ハ平山組頭役々
御沙汰被申出候ニ付是ヘ召連罷出
来十二月中ニ是迄之寺社奉行支配
當寺之規則ニ取斗度旨御尋ニ付
直ニ右之趣ニ而朝飯後掛合候
精々取調候而御書付一通

卯十月廿九日

公事人ゟ出入被成候ニ付其向迄持参為致候
差紙之節

一 今朝日又ハ吉日不相成候ハヽ当番之役所へ出候公
事役所へ差紙一紙ニ而本人ニ御達申渡候
当地諸合之内早々罷出許可持参致候
被成其外之御手紙一通ニ而公事人
呼出被成候ハヽ其文書之写を差紙ニ

一 掛り者若又病気等之節ハ書付を以呼出
之節ニ而附添被致候而可相済申

右人之者共御奉行所之公事人へ出入致候ニ付被渡
当番之懸り中へ預ヶ置候事
右日限相知候ニも呼出可申ニ而御届可申候
以上
右被成候ニ付此段申上候御書付写差上
呼出候節書付不申者共ゟ相届可申
相違無之候ハヽ何事ニよらず
可申付候出候者共ニ而急度申付候
以上

十月朔日　吉川元判

吉川治部殿

尚々御床敷存候
右御床敷候、二百吉達以後御法度候由承候
以上

十月六日
吉川治部

吉川元判殿

卯十月四日

一 筑後守儀上京被仰付候ニ付掛合
之通被仰付候表米被成候并御翻訳
御用意之御並立井出帰京之上被仰
御岩帰し申候且又未申越候
長崎奉行河津伊豆守様へ御取計
右之次第御地ニ而御指図有之候而ハ
御手当之二百五拾石之内被下候
其段之ニ而御沙汰被成候
御同役之先日御沙汰候而御申渡候

之趣御相心得候
之之之御申達候
番田中様

老中迄以飛脚窺候様御沙汰之

十月七日　吉川主計

吉川治部殿

右御状今二日相達披見候得其意候

以上

十月二日

吉川主計殿

吉川治部

御年寄衆へ伺書

状控白紙

卯十月廿日

以切紙申進候、今度御役被仰付候ニ付

於御国許被仰出候、御書付之趣

承知仕候、然ハ大膳大夫様

御達之趣、早々相調差上候

御書付ニ而御達、尤御書付之

上ニ御書付差出候

被仰出候趣、御一覧可被下候

委細以上

十月廿日

吉川主計

吉川治部少輔殿

右古物成今三百石本業遂以銀子友

仍返答候以上

十月二日

吉川重村殿

吉川治部

吉川周

[illegible]

渡日以来継之以先般朝鮮国より
渡海之義ニ付而八戸順叔申触候を以候得ハ
従禮曹東萊ゟ被申越候
以義上ゟ差出候處武部右ゟ返翰ニ
者彼方ニ於而者公私和文ニ而申述ゟ
申候ニ付而者然處ゟ以書面ニ
以義ニ差出候得者去秋無拠候
書翰を以而従禮曹東萊ゟ来翰
之返答方之儀何分之儀申候

御布告之趣を以致し候ニ付而和文之事情も
審ニ承知仕候右来翰之文意ニ付
来翰ニ而承り判然不仕候之足ル処御座候を
立所ニ而蘭語を以被仰付候ニ付而和解仕候
半者ニ而ハ翻訳致し兼候処先達来翰之
趣通詞共江被仰付候ニ付書面相改候
之儀ニ付御座候得共蘭文之方ニ而ハ
蘭語通弁之儀者見合候而も御座候
右之趣来翰之通詞共ニ而申上候

右文之文意ニ而一同ニ而和解仕候ニ付
及評議候所何れも
来翰之通詞共申上候能
此旨被仰付候ニ付而
御座候間右之通ニ相違無
此段申上候以上

卯 七月廿六日

吉川[illegible]

樋口鉄四郎

本間蒲太郎

小川丹下

村尾相模

村尾近江

本間治部殿

本間主計殿

右之趣五月晦日相守以書付申達候

以上

十月

町惣代殿

御内用

[illegible]

箇條今般之趣
於御國朝鮮并海方其外諸國之
掛合向之儀者去月十一日附御書状
中ニ委細被仰下候右者御用掛り
要路相懸上候ニ付京都并異船
一件之儀ニ付其外諸ニ形勢[illegible]
[illegible]離[illegible]
[illegible]
[illegible]相拒以[illegible]

市川團十郎儀之一条ニ付而ハ当支配ニ付
十分ニ見届候様致し許容致候得共
厚後取計致候ニ付当支配ニ而周旋有之
居候ニ付猶又以後共当時之形行ニ而
支配之者共見込之事ニ付支配之
者共而右体之事ニ而相成候ニ付而者
筆頭之相心得居候処難計
其段申上候処右ニ付申上候
掛合之上同様相心得居候事

右ニ付而團十郎身分一件入置候御沙汰
急度之上事実ニ而無之候ハヽ粗
右等之事出来候而者今般之趣
右体ニ而此段申上候 以上

卯
七月廿二日

古川宗女

樋口孫三郎

古川叢次郎

小川丹下
村尾相模
村尾近江

古川治憲殿
吉川主計殿

館守并役々より東萊府使及訓導
取扱居候処今般被申付候以右之時
之支式者改候儀大浦支之被相図極
以来知候之事ニ有之候処支干之様
追々者右ニ而如何成候儀茂及論候ニ付如
訓別差并使ゟ安否知問当主へ東萊府使対面
絶而其節対差之付之別差
安否相尋候徒民去之旁切対面
者無之入候中途之処加来満宿迄之旁迄同

彼今來以付私迎對面則前々之通ニ而相達
以書之彼讓候使渡海之処同時迎之
輕儀依之以書状申達旨彼筋申述之
甚無謂儀之事ニ而不及深察之文
聖教立之国中殊更府使申談 精
讀之ハ元来此義有之ニ付通信之儀
當門此三四等之彼表緩其以後御座候
在候得共ニ付之一向不行届
不等申之通訳事ニ付相違之文源

並諸蕃之學唐述義也其外之六冊
有之候儀并國中日本之可被
朝廷江而其之處不見聞事ニ候
此度其之供給之元之被遣候書翰
於當之官見之此ハ可申請御用向
可承知之趣ニ而公儀被遣之候事
之其被申達候ニ付而書事之趣府使
東都京申向冒立候彼方依承之段
可承知候

別啓

御達之通[illegible]諸侯[illegible]御用[illegible]
未熟[illegible]被[illegible]微力之及
[illegible]至[illegible]候[illegible]重職
御[illegible]時節[illegible]御懇志
[illegible]相済[illegible]
御[illegible]初而御[illegible]
中[illegible]御聞[illegible]奉存候[illegible]
御[illegible]宇内[illegible]

[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

又同

南国諸侯之大義ニ而国[illegible]
[illegible]時日[illegible]

事候ニ付此度甚以可致懇望候ニ付御使
差遣候處侍共迎ニ相違ニ而難成候處ニ而
職之儀有之候ニ付一旦御免候て得申上候
下度候處無據海上ニ而侍共逃去候ニ付
候中ニ付候儀段々被申候而得与承知候様
相成ニ付而有之候而存合ニ而ニ付候
相文有之無申上候海上渡海ニ付而別ニ
陳書元之上申渡候
国王使渡海し一年ニ而其之往来し候事也

其し年貢見之朝廷宜以御所望事
下置し有之候時之此方ニ而義安渡ニ付
有之以時指渡ニ而申候ニ而御座候
朝鮮より式国ニ而渡渡ニ付渡海
東武指渡行礼之様合ニ付渡ニ付来
兼而申渡し候様有之可致旨書付
差出候ニ付無御出様ニ而一国備様是ニ而
有之候様有之候得共忽様ニ而本邦へ渡海候へ
ニ而文之ニ而御海見合し候得共国不同

獨吟未熟之事ニ候得共世上ニ而ハ詩歌ニも宗匠
宗匠令日来候ニ付筆を染候合一己之儀得
候ニ付法門字及返對論候ニ而有之申候
篤と御改被成候心得座候文字等ニ候得共
可申上候

答

右御尋之趣承知致法義ニ付ても
御同意ニ及評判ニ付ても被定候様ニ申
候処御所存申聞候ニ一旦迄ニ参候様度候

右寄進之品御望之儀者於當寺相續仕度
奉願候段者御尤成儀ニ而御座候得共
前々より有之候寺ニ而者無之候得共
法令等之儀者被仰渡有之候儀ニ付
新寺建立之儀者堅御法度之旨ニ付
寺格之御願之儀者御取上無之候
當所寺今日ニ至迄一寺無之候ニ付
此度御公儀様江御願申上候
中々以難成儀ニ而周旋之上

度候然者今般御機嫌ニ付
以御使者御口上且又御肴一種
被下之過分至極忝存候御安
慮被下候然者御口上之趣
承知仕候右ニ付御礼申上度
以書中申上候如斯御座候
尚以右之段宜御取成
御頼申上候

右御礼旁申上度如此御座候
以上猶期後音之時候恐惶

及御返答早速御請申上候
御用之儀も御座候ハヽ被仰付
可被下候御報迄如斯御座候
恐惶謹言
右之趣宜御披露
可被下候以上

六月廿九日
番　継殿
御雅意拝披

河内守今般御役御免被仰付候
上者様々申聞候得共去ル亥年度以来
其段役所相勤候道管理之御用向
総合不備者御代官預所ニ付
無之間以来者右事は可申込事
早初御道管理以前者御蔵詰
御道管外ニ付達候ニ付相談致候得共
当時ゟ渡方并ニ御米壱俵ニ付延銀
御米御渡之延銀之総合不申候右

村尾道伯様
村尾玄模様
小川丹下様
吉川蒲之助様
樋口鎮三郎様
吉川采女様

行方ニ而事とも有之候処取扱模様
承知仕候得共難儀ニ存居候間相願
候處ニ而事不承知ニ付申事難相成ニ付
将勝手方郡中宿役人共一同承知
之儀張紙別段ニ而相伺候外有之
肝要ニ付其段内願之上御使者ニ而
此度儀ニ付取扱候ニ付恐入候
急之ニ付者難儀ニ付願奉願上候
殿方宗門改ニ而御苦労恐入奉存候

安政御勤役中ニ而申付ル道筋事之
候間御府内出張所相改関文下来り
大之儀ニ付御聞置被成下度奉存
百一関文被付候ニ付右委細御承知
而御取計之程偏ニ奉願上候
関文持参ニ付右之趣相成候節申
之ニ付非常之節ハ御取計被下置
右之通ニ而宜敷哉右之御会所
及返答ニ付右之者共御答申上候得共

所詮井伊夷安周旋之御信義を失ひ
候得共大老役被命御当之御事
御継嗣之義ニ付 朝廷 御沙汰有之候得共
被為在御猶豫之儀大事件を生じ至
候之時機ニ而も難言之儀も有
朝廷御沙汰之趣
東武官員之面々御旨趣之儀
ニ而ハ当御家至ニ候得共来ル御請
之儀も有之又是ニ御座候而御事ニ有之

御家中之内 朝廷之御沙汰を被為蒙候
左様之御得心も無之候而者是非共
御座候之儀ニ付而者大切之儀ニ付御座候
御家之御為御一家之御為方々へ先
両宗之御決議不宜御家之御為を
存候而可被仰付候而御宜候間一筆ニ
返答も承り度得と可致御評議へ
右関東御事御帰国ニ付御勝手向之御心得
迄之御用談申上候段 紀伊殿之御承知

致我切ニ而読情有之候ニ付一ト先ツ存在候難キ
然ル処根ヲ切労ヲ晴シ候而決定之上合
見通シ不申候ニ付其所向ヒヲ定メ
其段申上候ニ付道理ヲ押立候而其
不相合候而邪正不相分悪口抔申
候而不相済儀ヲ申居候而取リ不申候羅織
申立大事件ニ相成候而不申候
御事も有之候処其所見通シも無之専
了簡相成候ニ付相成素ニ候段相絵事ニ候

初而当御用向ヲ申立候様致候而不相掛合
候ニ付而其後ニ対シ候ニ付其意ニ無之候
御座候而御用緩ニ候ニ一ト通リ相済候
存候中ニ致候ニ付相成候羅織ニ候
而ハ大事件ニ相成候間大ニ相成候
申ニ付相成候而相成候節ハ御座候
於而相成候処相成候ニ付候
事ニ相成候而今般数日相掛
動静共相成候而相成候

此度者ホ御合以積ニ有之候此段為可得
貴意如斯御座候恐惶謹言

六月廿二日　紀経孫郎

浮雄　藤織殿
村岡　逸白殿
村岡　杢権殿
小川　丹下殿
古閑　浦太郎殿

古川　采女殿

前條今般ニ至候始末者
上様ニ御採用被為在候事ニ付同意之
者も有之候ニ付願文差出シ一統御安達
太郎之宅ニ相集神前ニ而誓約宮古澤主税
入館被仰付候様申立候処対シ幹事方之
廉を以大事件之沙汰向相談可申ニ付
中ニ我等判断致シ大越備之守押込
引居候処願居候ニ付清廉大谷證介
方ニ参リ一大事件之儀も御座候ハヽ文字

右通答[illegible]申上候處左様

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

七月写　仁経孫第

清雄　菅鐵殿

村忍　適江殿

村忍　桐横殿

小川　丹下殿

古川　菖蒲斎殿

樋口　鉄四郎殿

古川　宗女殿

之旨無御座候様

被仰付候様ニ可被申越候

以上

一筆致啓達候、然者御前方茂
弥御様躰無事、去年以来肖言
来候ニ付、淀文之助所召寄ニ
候処、一覧不被遣、去故朝鮮江罷
江送遣ニ付而勤之調役人ニ交代仕候ニ
附添出府之上、新古交代之節ハ
新書翰為遣候而朝鮮江差越候
何レ茂不遅、差出之節ニ付為指出
候之節ハ出府之上ニ可有之候

〃 御書音物之儀
去々御書月次之御書札 以前之通可遣候
以上
十月
之進殿

承度者ニ而急度書付を以可被申上
度候得者承知仕候由御届可申上候度者并御勤
被成候ニ付此方ゟ可被仰付候
此段為御申達候様ニ被仰付候以上

八月十一日

古川采女

樋口孫四郎

吉川蒲太郎

小川丹下

村尾相模

村尾道臣

古川治兵衛殿

吉川主計殿

当ニ箱入ニ而差進候間御落手可被下候以上

覚

然ル相渡候振ニ而候處有之候得共
不及候ニ付為念申遣候以上

大坂より

右御伝之儀ハ衆
御相談之上

卯十月廿二日返

以切紙申達候去七日以来御紙面之趣致
承知候ニ而ハ右之通御附申達候以上

九月廿五日

去川
　　某

江戸

御役中

以手紙致啓上候
去切紙去二日出ニ而御書付相届
申達候以上

十月五日

吉川元春様

江戸
法印
御中

従〔　〕御朱
御頂戴

以飛脚申候、去月十三日
上様二條御滞留被成候
勅使被参向、御紫宸殿之
宣下被成候、
天下静謐目出度候
御吉事可被聞召候
恐々謹言

九月廿三日　吉川
元春

信又三郎殿

卯十月十六日到来

一 御紫波郡買米ニ付
右之書出之日本差出候ニ付書付差上
申上候以上

十月五日　　　　俵又三郎（印）

吉川□之丞様

当御役所御承知
相成候

卯十二月十六日達

前紙申達候通書上之品々買
紫波郡佐比内村銅鉱山
御国産方ニ而精錬ニ付被仰付候ニ付請負人前沢
伊兵衛御願ニ付御銀子御貸下ケ被成候ニ付
申来候ニ付御金三百両御貸付被成度
伊兵衛申出候ニ付右之者共書面之通
御聞届被成候ニ付御尋申上候
御当座之内御取計被下度
候様被仰付候

九月十五日　　　　吉川主計

清文三郎殿

此状未致啓思候
右状去二日相立ニ而御書済差
申上候以上

右同日　　　　清文三郎

吉川主計様

致名納ニ而相済候
来ル九月中マテニ差出可申候

卯十二月十六日達

江戸屋儀中筋村田畑荘作一件
ニ而先般先之帳面持参いたし
相差候処右帳師より差出町家敷
当七月十八日始而不残相補
御役所へ差出寛大之御沙汰
云七日町中村大久保与兵衛
主計殿より書状を以差遣候
仍而致可申荘作候得共
同人儀先達而御書付相添

以後之様ニ而右之儀丈之了簡ニ可被成候
無相違申達候様存候

九月廿五日　　石川主計

佐　文三郎殿

以書状未得御意候
右書面去ル二日相達候処御請申上候
申上候以上

十月五日

佐　文三郎

石川主計様

右御付之取計
去ル御達之

以書状申達候然者同列中方ヨリ
武様之参着八月十二日之御状相達
別紙之通被見候上右状箱申上候
時候之御達役場ニ
相渡候以上

九月廿五日

石川主計

江戸

御役中

卯十月十二日達

右之切紙去ル二日相達候ニ付如此書
御書中ニ候以上
十月五日　諸役中
右川五兵衛殿

役人衆之頭並ニ総
組頭同役御目付之
此役並寄合並諸
番頭物頭並ニ大番
右之役方等ニ
申来り御勘定所
御触之旨相心得
可申也
以上席御役々
御側衆御番頭
御小姓衆御小納戸
小十人組寄合

一　御年中遊候
御家老様御目付衆御自分先触之儀相済候ニ付
御相役之儀へ申立之趣ニ付御判物ハ御同心之
者ニ候者共出府之儀ニ付諸役人合紙
具之儀御触之趣ニ付次第可被仰付候
御目付衆御通之上ニ而御役所ニ而被申候
右御見合之御家来御用方御組頭衆
中組之者共諸役文平方御役儀
以後御合有之候而大之趣ニ付

卯十月十二日達

三度ニ江戸表江差出候儀
在之御書付写之趣
被仰渡候付而
御糺之上可申上候

村並奥印ニ付張紙ニ而差出申候以
右之通ニ候
九月廿五日　古川宗升
猿又三郎
右御書面之趣相違無之御座候以上
以上
十月五日　猿又三郎
古川宗升殿

段々御糺之上
御取計被成下
候様奉願上候
御聞済之上
御下知

卯十月十六日返

以前従御代官中差出候村々猿八郎
御蔵詰不残猿八郎相成押込
候村々凡日数二年目相立候処
従村中然共先人々尋問之上
当時被成御支配之節
有之候村相分り
御取計之上通り候得共申達
基本之内御状并御紙面猶更
公儀之御沙汰遅延之處容易

猶御逢次第有之候者御宿元へ
以御使者早速罷出候様可被
仰付候以上
公儀御海防御用ニ付御沙汰之趣
御申立候得共御勤役ニ付御達
候付而御同役へ相談之上
可有之候間、御返答可申上候
以上
九月五日
太川□兵衛

俵又三郎殿
御状去ル十日相達候得共以書状申上候
以上
十一月五日　俵又三郎
太川□右衛門様

御請申上候如此御座候
恐惶謹言

御紙面令拝見候、然者去未十一月より
上様御事　公方様ニも御称
御前御中様御事　御老様ニも御称
被為召同日
公方様二条　御城ニ御入被遊候
以後御事ニ御座候、御書付右之通ニ御座候、依而
被申来候、然処先日より勤向ニも右之通
相心得可申旨被申付候、以上

九月廿五日
吉川 □□針

午十月廿六日到来

〃
儀　又三郎殿
右儀兼而被申聞置候
太刀[?]御免百姓[?]之者江相達候処申達候
申上候以上
十月五日　　儀　又三郎
吉川〻之[?]様

御切紙

卯十月十五日達

以切紙申達候、去ル二月以御用付京
都ニ罷越候ニ付御役所ニ御届被成
候処、書付ニ而御心得之為申達候
以上
九月五日　　土屋[?]
峯岸市[?]
宛
御役中
右切紙去ル八日相達候以飛書申達候

右之以上

九月廿七日

江戸 詰役中

京 津軽家留守中様

御用之口状書十八日出ニ而参候

卯十月廿九日出

以切紙申達候、然者先以同列中ゟ之書
振合之番七月二日武藤持参候同苦労之
書状并達書被見候付御申上候別紙
写之振役場ゟ相達候紙面相揃候
相渡候以上

九月廿七日

京 条中留守中

江戸 詰役中

右之切米去十八日相違候書付出候
申出候以上
九月廿六日
同心
徒役中
御蔵
御奉行衆中様

此来御相談
此切米申達候六月廿日
上様御召之御用ニ付紙摺為御急候
御徒頭様　御目附衆
御奉行衆中様へ
還御之後
同廿二日
上様九つ時ニ付紙摺為
賀陽宮様
挨拶様へ為成中
申渡之
[illegible]

遠路ニ花房筋ゟ飛脚を以
右之段及御沙汰候以上

九月五日　　　年寄中

江戸
役人中

右之御触書去ル廿八日到達候ニ付書写
中上ゟ以

九月十五日

役人中

右之趣年寄中ゟ申渡

大貝尓
葡萄牙
孛漏生
瑞西
白耳義
伊太里
丁抹

右之通之国々与条約相結候ニ付、追々英吉利
御當地之商売之振合ニ而追々繁昌可致候事

右願之通被為仰付被下置候ハヽ難有仕合ニ奉存候
大坂[illegible]神社[illegible]
ことのや
年月
大坂何某[illegible]殿
此度[illegible]
本人
[illegible]
[illegible]年[illegible]

町人[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
中[illegible]
[illegible]
[illegible]
大坂[illegible]何某殿
年月

大目付江

西御丸御座敷之内御普請以後年数相立御修復
被仰付候処去ル午年出来候得共猶又破損所有之
此度改而被仰付候ニ付諸大名之人々江高百石
ニ付金割合を以御手伝被仰付大坂御蔵へ
可被差出候 三千石以上高割合を以
分限ニ応御取立 三千石以下割合を
西御丸御普請御入用之儀 千石以上割合を
来ル亥年ゟ之御普請中ハ新規ニ可差出

右之趣万石以上以下之面々江可被相触候
右之通向々江可被相触候

九月

三郷加へ

午十月十七日出

以切紙申進候、然者当地平山
覚書以御内々申入候処今程
東武御用掛御目付中ニ而御書
生ニ而御評定所而御座候趣
御模様を以申上候得共、其節
打文談ニ而御座候義御座候
存候以上

六月廿日　古川治右衛門

市川平太夫殿

右節殿去七月廿六日御達ニ付書之以
及御返答候以上
九月二日
吉川治宝度
年寄中

之承知候

弁十一月十七日之書
節殿中進以外国造船之事以下治殿依
御乗船中御聞之上節合殿之御建定之定
以付京北 お尋之上要殿御使者以上御播磨
右御同以前江戸表御使者御用御旗門
宿代部御花中小笠之京之殿被
御府之儀ニ付而は波北御出之節御室
之右万衆之中御指示有之候得は之京被
之長去月廿九日兵庫表より無之氣
御船出御東下し御座候得は右治殿御指之

多分当月中旬ニも御参着可有之
夫ゟ英吉利之帆船ニ而帰国致候ニ付
当月一日迄ニ御出帆之船ニ而参合
可申哉ニ奉存候一下来之御様子遠察
御安元ゟ申御懇会可有之哉度
此段御心得迄ニ申進候以上

二月廿六日

古川治右衛門

御年寄中

当表之飯頭之儀此度当月廿四日
出帆自分之御渡之根ニ而下向相成候
御沙汰有之帆船ニ而御渡海之儀申付候
以上

右之切紙去七月十八日到達御返書
及候御返事ニ者以上

九月二日

古川治右衛門

御年寄中

一々申上候得共
差越候人参清
此御紀将軍家
之様不審候

卯十一月七日出

一　筆工之儀ハ於河合氏
上々様御安泰之事ニ御同意
其後恐悦候将又朝鮮國別幅書翰之
及返翰候ニ付此書ハ今不相違候得共敢
写之御中紙ニ次第御用之旨被仰候
有之早速拙者差上候へ共御面会可申
去月十五日御書院中板倉伊賀守殿
差出
公之御沙汰之次第申候以上

御出被下候様及御意度奉存候
於江戸表御用向御座候ニ付御遣し
御指遣シ来候所彼地及往復候処
此節日数相掛候ニ付当所留守居一人
只今ニ而差出候様御相談ニ付御一切御談
取来候得共右差支之儀も有之候ニ付
候処八戸順叔ニ申者ニ付統篤
御手前同様ニ而悉取入不申候
儀ニ有之旨被仰聞彼地之御清節

猶又懸合被申候旨ニ付猶又致安心
良策も有之候 御承度存
思召候儀ニ付右之段ニ而宜儀有之候得共
源之丞辨安否御礼書ニ付 御通ニ付
上の御手前書一通を以御承知可被下
置候旨被仰聞候二月十日付御書付 御届申上候
御請被成候所ニ付出候様被仰聞候 源次郎
差出候処組頭ニ付 御内意を以
差出候一通以宜敷取計旨被仰聞候表向

御渡中ニ候ところ右ニ付當ゟ被
勘考之上猶更御国許ゟ者相違ニ付而し
御筆ニ御達有之候ニ付右京様之ニ候
急度申談候ニ付御聞届被仰付候様急ニ而
談候而清彼之様ニ付而者右様御場合
迷之彼国ゟ及ひ御通候
公儀之御沙汰ニ付右相続方被成候風聞ニ付候儀
之追源事御許容被成候而右者ニ付起
御取扱被成下候者不日帰国之人先便ニ

為其以後右之段此段申上候如此ニ候
御理ニ為御座候

六月七日　古川治大夫

鵜雄薗城殿
村岡直江殿
村岡相模殿
小川丹下殿
仁保源之丞殿

古川菖蒲右衛門殿
古川采女殿
御状未刻令着候
右御状去七月十六日相達候書
及御返答候以上

九月三日

古川采女
古川菖蒲右衛門

小川丹下
村岡相模
村岡近江

古川治右衛門殿

上包御書付末
添紙ニ而

切紙中ニ者去酉正月六日大和守様 今井ニ而七ケ月(?)
御下知書之趣被仰渡候ニ付御請御座候
表向ニ付而ハ猶又御届申上候以上

十月廿四日

吉川主中(?)

御年寄中

一 状来略之

大御所切紙去丑月廿日(?)付以後書及清(?)
返答ニ以上

八月廿六日

吉川八良計殿

年寄中

上ヶ申候御請来候
此分也

卯十月廿七日着

前様中進之令披露候
将軍家無事御坂之遊御参 御勤向
之段被仰出候
被聞召 御満足之御事候 恐悦之御事ニ御座候
恐惶之由 中進之候也

七月廿六日

吉川八良計

年寄中

御年寄衆中

右之切紙去ル廿五日相達、致披見及返答候
以上

八月廿六日

吉川 主計殿

御 年寄中

之段承知之旨御申来
候様ニ之儀可申承候
右之通ニ候

卯十月廿七日返

以切紙申進候、然者来春被申来候趣
委細之御家督相続之儀ニ付而者
御見合之候、猶使者口状ニ申含候
委細ニ候 以上

十月廿四日

吉川 主計

御年寄中

御状之趣致承知有之候
右之切紙去ル廿四日相達、致披見及返答候

以上

八月廿四日

御名
御年寄中

吉川五斗殿

今形知白

卯十月十七日

以切紙申進候、一條左大将様御妹女
寿栄君御方御権大納言様
女御御治定之 御出候後 御養
子之方か内々知来候此段御心得を
申達候 以上

十月廿四日

吉川五斗

御名
御年寄中

右御状去廿四日到達披露候処被成御承知候以上

八月廿二日

吉川主計

内蔵
毛利年寄中

之義致承知候
御物も人遣
御座候

以飛脚申達候然者御印書一通
差上申候猶以得御意候清水奥様へ
指上申候頼入候恐惶謹言

卯十月廿七日出

七月廿四日

吉川主計

清水年寄中

御状拝見候
去廿日到来返答候

覚

八月廿六日

荒川三平次

御
年寄中

[illegible]

卯十月十七日着

以切紙申上候　去四日
上様九ツ時之御供揃ニ而浜御殿江
被為　成夫より尊寺殿三條様殿江
還御被成候間為右御知如此ニ御座候以上

十月十四日

荒川
三平

御年寄中

尚々切紙去ル十日御達以飛脚申上候
以上

八月廿二日

吉川主計殿

年寄中

卯十月廿七日達

清円閑居

右承知
御渡後御安否御尋
被下御懇意之段本望
不過之候得者尚又御
相談可申上候
此趣御承知可被下候
之趣宜敷御承知
可被成候 尤格之
前々之通御伺之上
御聞可被下候
段々御掛合押詰
承候之趣弐冊差出申候

貴簡拝読仕候 然ハ去ル六月十一日附
之貴状去ル八日相達
御国使ゟ渡海之旨被申達候ニ付
幹事府之中ゟ来状之写一通被見
朝鮮国情時柄ニ付安否御尋被下
御文右御演説
公之通之趣 御出之次第令承知候
御申越之趣委細承知仕候
府民之者ゟ評議致候ニ付字ニ附

夥之上速ニ達成
功之同意ニ
當惑ニ奉存候
面之節ニ而速ニ相成
中ニ在之難之事
急ニ御用網之方
是之御取扱之儀
之候

就而国書之儀御使者以渡海可被
御改定之上ニ而此國之事ニ而ハ自然御案
有之候ニ付而ハ御手数ニ相成候
御確定之上朝鮮ニ而も此段之儀被申
國使ヲ以渡海可有之御答候事ニ候
御都合ニ而御違無之海路汔使
渡海ニ而尚又御用之速ニ相成
一事御心得ニ被存候而ハ難船
御同様ニ而ハ於朝鮮表ニ而被

和向法制ニ而難有之見候文
無満之楊
唐式ニ而其上之相改之徹底
朝鮮役之者之無挨拶
之一応ニ而儀之上ニ而是等一
御使者ニ而其向之上臨ニ而上京
之儀ハ之不容易次第ニ付心得方編
以下向方ニ而渡航之儀両國間
公私ニ而都合宜敷儀ニ付於無拝差役之

其合差之儀ニ付得共 航御討書し
御尋茂有之此度ニ付御用御含之
内外御懇之事御沈ニして其度ハ御沢ニ
合之候事来る四次(ニ)以来向之ニて可被
以迅速ニ而取計ニ出ニ付老成来候ニ云
船艦ニ及求ハ御用筋ハ以ハ波國し
機嫁之向緩急據有之道篤振も可
有之候ニ付候て此度之一挙を海ニ
波国危急[illegible]ニ深[illegible]御清[illegible]

御諮詢之御垂問之有之候ハ
特命ニ出候儀ニ付只今ニ至朝鮮向從前
若狀ニ御親ニ有之此勢大ニ相老ニ而常
地平ニ相懸大ニ賀候ニも未だ上京[illegible]
以来両国和合之後ニ被申進候得共未だし
相違無之来月初旬ニ御渡船之筈ニ
可然又ハ風示和も向ハ可有之月[illegible]
の延引この[illegible]以つき八月中ニは[illegible]
船之事ニ付漂流國[illegible]候ハ朝鮮

来状中訓道ニ付大事件ニ付而返答
之節ハ相談致兼候ニ付先達而文八月
以下向ニ而條ハ夫々自ら之節ハ後難も
有候ハ、事成ニ而宗波国返答も凡
相分居候中ニハ右之文面ニ而彼今般右
以下而如何も出来可申と申ニ付而之ハ委
國使接遇之思召ニ候處彼國之事
不容ニして
皇朝より之御返答ニ而此度御場所ニ而済候ニ而と

可致旨ハ以御沙汰ニ付後ニ而宗家ニ而受合
兼候ニ付ニ而
御大度量之御用捨ニ付任意ニ付者ハ
海之御国御沙汰ニ付此度ニ而遣ハ追而
皇朝之御盛德ニ付感候ニ付疑惑
國使彼款待ハ相成候ニ付致し候而遣也
不相済候中ニ而萬一も彼國戦爭
被難ニ来候も海上彼之周度之場
之中ニ而今之遣し

御使節を以て禮文を備仕候を
無之して其ヶ條を彼國へ申渡候
候て御拒絶之儀を随従
之人致も指引之儀請事彼國力を
以て御威候わけも御建述ニ有之旨ニ而御尊
之御用向之御取扱ぶりも無禮之次第に
之御禮文も一切有之候無之段も返答なし
中進候右之趣を以て京師御座御國へ
之兵威を以て一挙に於決候事於京師

之國綱紀之事一旦一變し力を添し
急度永遠御國之御基本相立候様
奉存又は安心之場合を私とて為人内
中帰國いたし
威武之御情實微細ニ徹底
候様各存意ヲ得候心得ハ被仰出候
而もの元来船急ニ帰國なく
候而其先大意一通書記差出
之意之候伏而此段力ニ申述候御沙汰候

為後證仍如件

卯
七月廿九日

古川主計

古川淡路

将雄番増殿

村岡近江殿

村岡相模殿

小川丹下殿

古川七蒲右衛門殿

樋口源四郎殿

古川采女殿

右御状去廿日相達候書状

以返答以上

八月廿二日

古川采女

樋口源四郎

古川七蒲右衛門

小川丹下

村田相模

村田近江

石川治左衛門殿

石川八之丞殿

卯十月十七日出

浩内周吉

宗義智

以同状令啓上候、御若年寄衆並御国
被仰達候、平山将監添状去ル廿日
勝地ゟ御注進、当月早速渡海
一、右ニ付御様子承り候処、御国元ゟも
御飛脚ニ而御聞届被成候
一、同日御座朝鮮ゟ渡海
一、右御組合ニ而云々候迄一百ゟ天下御渡来
一、御坂之儀大坂表朝鮮国
御同伴之儀、被有之御様子
始終之事、坂渡海

去比ハ付御報被仰聞候御旅
公之義介因ニ而も御本帯ニ被為相孫
ニ而在之ハ訳ニ而之し而何ら因介御峯
多し代家相彼ニ依申セ之御用向
相運候由而無御ニ而之ハ字ニ御無合首
御懇念義ニ而在之ハ申之相見ル相伝
ニ而可有之就去冊四日典厚公使ニ而
到之候儀ニ
将軍様御下知有公使被仰渡候儀之

結付ハ御峯之去来ニ而存義被考候ハ
得せ其之御心其面不合義ニ而有之し
朝鮮之御彼ニ被し申之依ニ而御口氣之
以可去九月義掛ケ申二申坂ニ而御用談
ニ而之時宜ニ依一旦御兼不し御様義
有之候ニ付被見九月ニ而も相都り
可申哉海ニ而被許し御用向御運ニ相合候
ハヽ朝鮮之御彼海方義進し御受之
御内偏し御峯情之気も御在之介國

且又朝鮮国江之對州取扱合之儀第何与
御座候処御合之趣ニ付其御沙汰可被成
右沙汰之振御上京ニ付平山様ニも速ニ御下向も
可有御座哉之儀御尋有之取極メ申述候
御用之御沙汰之振ニ付御下向ニ相成候とも御趣意も
有之別段之御沙汰ニ付御取計被仰通
官武之御沙汰取扱御談之通被仰越候
有之候得共右ニ付平山様以下御下知ニ付
右之趣合之事且御沙汰之振御取扱

沙汰之儀ニ付且取扱合之趣先急ニ
御国方取扱之儀ニ付御沙汰御附候切之通し
御沙汰之趣承知之趣御沙汰之振ニ付御下知追而申上
平山様御上京ニ付御沙汰之趣承知仕候
及御願候ニ付御沙汰之趣ニ付御沙汰之振
御下向之節者御安心之儀御沙汰之趣
不被為及御安心ニ付御沙汰之趣御取計
ニ付御沙汰之趣御沙汰之御指揮
有之候趣取扱之儀御沙汰之儀

之候儀了

卯七月廿九日

古川主計

古川治右衛門

浮雄蓮妹殿

村岡近江殿

村岡相模殿

小川丹下殿

古川亀浦太郎殿

樋口鉄四郎殿

古川采女殿

右返状去丑月相達以飛書及返答に

以上

八月廿二日

古川采女

樋口鉄四郎

古川亀浦太郎

小川丹下

村尾右膳

村尾近江

吉川治兵衛殿

吉川三平殿

之旨被仰付
御届書差上
申候以上
月 日

一 當人儀是迄不寄事候得共此度
御家ニ而御役平田治郎御
被仰付御届
[illegible]
中務へ被仰付

卯十月廿七日出

六月廿一日　長門守

鴻雄[illegible]殿

石川治右衛門殿
村上近江殿
村上相模殿
小川丹下殿
石岡□蒲之郎殿
樋口鎮□郎殿
石川采女殿
[illegible]
[illegible]

六月[illegible]

石川采女
樋口鎮□郎
石岡□蒲之郎
小川丹下
村上相模
村上近江

右同ニ付被

卯十月十七日[illegible]

御内用留

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

去十八日来翰

[illegible]

[illegible]丈夫[illegible]

市之進[illegible]

[illegible]御座候[illegible]

[illegible]

荘蔵儀當別表脱走之節右様御座候ニ付
之儀ニ付実否之儀ハ無之候得共
不届之事ニ付右之次第ニ付御手当之事
之候ニ付以後追而可被仰渡候
有之趣ニ付御沙汰ニ

一 御同所忠蔵妹ゆき去年以来
出奔之儀も有之候ニ付兼而御届申上候
儀ニ付荘蔵儀御預ケ相成候ニ付是又

一 同人之義揚入牢申付候ニ付

右之段御沙汰ニ付此段御届申上候
以上

卯十月廿四日

吉川三郎

湯雄藤蔵殿
吉川治郎殿
村田逸平殿
村田嘉様殿
中川丹下殿

吉岡恩浦之助殿
樋口孫四郎殿
古川宗女殿
右御書付之通被仰渡候以返答書
以上

八月十六日

古川宗女
樋口孫四郎
吉岡恩浦之助

小川丹下
村岡右膳
村岡近江

吉川主計殿

以別紙致啓上候
御縁女様御出御渡海前ニ付
御隠居様御對面可有之旨ニ候
公儀江御願之旨任御差図候処御承続
以飛脚先達而旧臘廿二日附之
御状去ル十日相達致拝見候御縁組
御渡海被成候ニ付而ハ為御祝儀 料文
御出船之節御様子承知候旨御同人代書
御承知被成候及御返答候 御会釈ニ而

右御承合之趣ニ付
公邊御都合向猶又御聞繕之上
肥前守様御取計及御相談御治定之上
御積ニ御座候得共此節御出張中御渡海
方ニ而御手配御達御座候ニ付而も宜御
出帆之都合相成候ニ付御聞繕御座候
御届ニ而御承知迄ニ而御都合
御内意之趣も有之御都合向無余儀
當役勇太郎肥前守様御留守居

候處文平方ニ而都合役中様御留守
居より御知らせ御同役へも御談有之
御渡海之儀ニ付無之来趣有之相成文
通之趣ニ而及御沙汰ニ付依而御達
被成候得共御國許より御届之處
候得共御尤ニ候得共御承知被成
御聞合肥前守様方ニ而御都合被成
被遊候ニ付而御取計御沙汰文
當役勇太郎文平方ニ而御相談之趣

亜一及承候ニ付今以何分ニも減義
不申来先般御承諾之趣並ニ御家督
中其並御附々未タ返書も不相来候
御附之急用友御報も有之趣及
御承候不容易之義御ニ而申来候由ニ而之義
総文御親ケ今般ニ相談之度御承候ニ付急答
有之候ニ付其文平一己之内給候
御分
公儀へ御沙汰御座候ニ付被成候ニ付有之

之ニ候得共於御家奥方様ニ而家内ニも御座候
御所様御様子
御成之義茂如法御沙汰ニ而候へ共
御親類御中并ニ相立居候と其
御親類と御座候御頼立候ニ付御願
御取扱之御沙汰之相立候及御内意之候
容易御沙汰ニ御座候ニ付可申上候
御出之御為積ニ御聞届ニ進退御取扱候
御沙汰御座候ニ付御申付ニ御口上

ニ候御影前ニ而御取次ニ而御意を被為候ニ付
御出迎ニ而おゐて御書院御目見ヘ
ヘ通御脇差を御預ケ合有之候而
御方ニ付右之御通ニ而左ニ御押立
御渡弁之御立ニ而御押結御附ニ
御取向御取次ニ而御出迎ニ而御手
就爾者被遊御挨拶御広間御出
御間ニ御取次御縁側太刀大史被下御披露御
之御差出之扇子拝領ニ而候而

御書院ニ而御取次ニ而御練物被遊候御口上
御年齢之義ニ付右之趣御伺之御意得
御都書一同御取次方ニ而御取次ニ而
御書院前ニ而御挨拶御答ニ而
御出之上御差図御披露ニ而御取次御
御取次方御申ニ候而御披露御目見大流太史
御差之御答之御居ニ御取次左御
御方御取合ニ而有之御前ニ而
御縁側ニ而御口上之

三日御夜伽も不相叶出来申候処有之
東都ニ而も去年中廿八御達御座候
中将様ニ而御満足ニ御座候而御取立
御機嫌よく中々御座候事ニ而中々御座候
御分家様ニ者東都御用被為遊候も
急飛ニ而御座候乍恐不遠
御座候可申上
御家様ニ御縁も大慶前後ニ存
可申上御伺ニ而此段御申上候

聢と不遠急飛ニ而御座候可申上候御縁
有之候御座候御縁者ニ御座候
御取立も御座候ニ而も御紙面之段
文平ニ御座候乍憚御済申上
御隠居様御尋御返答ニ御取立
ニ而も御座候奉存候有之御座候
御菓子縁御座候令御座候御座候
御機嫌御振舞も御座候ニ而御座候御座候
不申御座候御座候御令御座候

秋之節も新高之湯浅家ニ而御銀札通
用之事有之候ニ付御家中へも御銀札
難取扱迄も相見候ニ付遠慮御
御銀札立之候而も度々被仰付候得共
相済候ニ付有之候ニ付金一歩之
意を以而も有之ニ付急度可申
肥前様御方之為ニ付御加勢ニ付
余々御家之内ニ而相定候ニ付御銀札
尽る之相見せ御銀札渡候事有之候得者

猶更相成御主意之御減少も有之半高
相成候御家中ニ而者御方御銀札之
有之候ニ付又も前々元度御加勢之方
御銀札之之御差遣被成候様
等へ御届候御用度候而大金之文字
一ヶ之処も有之御談合候度也ニ付
右之御手伝も御銀札御渡候御届候
急度之事肥前様御方ニ而御加勢之合
此御銀札相成候御届相有之候

東[illegible]様御縁組之儀[illegible]紙

[illegible]御[illegible]縁組御用弁[illegible]御差出候

之儀紙[illegible]御差出来候ニ付御届

為御承知如此ニ御座候以上

十月十二日

加納重三郎

滋[illegible]兵衛

清又二郎

湯[illegible]様

平田為元様

古川[illegible]様

村岡近江様

村岡相模様

小川丹下様

仁[illegible]源一郎様

古川[illegible]蒲太郎様

樋口[illegible]郎様

古川宗安様
吉川重村様

〻承知仕候
六月廿二日お達し

一筆致啓上候江戸表古川宗安より
拾両宛六月三日拾壱番目見日迄来
お達有之書付を被見候処
上々様方御安泰被為成御座候由承知
仕候同意奉存候右御請申上度如此御座候
其外候お達候旨ニ可被下候以上

六月廿二日
古川治兵衛
沖平兵衛

書之先月中ニ御渡申上一冊差上申候以上

右之切紙去月八日出之達ニ而承知仕候

以返答如此ニ候以上

八月二日

吉川治兵衛

年寄中

ゝ御報ニ候

以切紙致進上候　去歳被仰渡候御儀ニ付松平右近将監様

去ル月廿日ニ京都ニ而御念入ニ候　御使者ヲ以被遣之候

右之通御談之節一通之御使者ニ而御座候

然所ニ此段御得心可被下候　以上

六月廿六日

吉川治兵衛

年寄中

右之切紙去月廿六日之返事ニ而御座候

及御断候以上

八月六日　御　年寄中

古川治兵衛殿

右之趣御承知可被下候

右之通候

以切紙申達候江戸表古川貞右衛門分

拾両為替当月五日之御状相達申候

被見候然者

上之様御委細承知仕候御尋之儀段々御座候中ニ付

[illegible]

不残相済申候以上

八月六日

古川治兵衛

御年寄中

右御請書差上ケ申達 御聴置度
御座候 以上
十月廿二日
御年寄中
右日限奉畏候

之趣承知可分
文五郎殿承知
武八郎少々候
御手当之武家衆
相勤候
美濃様御役所
より之御返答
美濃守殿備後守
出張之御方々

以別紙申進候 大坂御目付衆より御答候 十二月
御勘定奉行衆へ御申越候旨承知候
並以通ニ御座候 御目付衆へ之
以書状御相談之文被申候
美濃様御上京ニ付御請として御用人衆
道中御借り方ニ付御用船日数
当時之人数等にも美濃殿御用向ニ付
大坂御勘定奉行衆へ御申越之 大坂御役所中有之
相談 以上

六月六日　石川治右衛門

御年寄中

右切紙去ル十六日相達候ニ付御請書

及御返答候以上

七月廿三日　石川治右衛門

出宗　年寄中

以御面談之趣承知

三ヶ寺より申越候則

達

御用中

以前之儀今般兵庫開港一件ニ付

当三月廿九日被仰渡

朝廷御沙汰之御旨合相

厳様御沙汰之義承知ニ而同日深夜御同席様

振之心構以別段考量御建白之御書面

状書之通為取計去ル十日御用番御

参日野大納言様江御届書来飛脚

持参雑掌掛合之義出来御前様御承知

以後東京役之中職ハ右河方様御手前ニ御座候

御申立之趣御承知被仰付候ニ付於
御前様茂御同様被成遣候添書茂御届
可被下中上候右之段可申達
御聞届ニ相成候

一 朝鮮國より来翰一箱石川八治へ相渡済紙
且又紙面八日相達候ニ付直ニ京師ニ差上
候處同十月御老中板倉伊賀守様ニ
罷越被仰付候処御聞置被成候旨
御申渡候ニ付右之段御通達申上候

以上中来候ニ付御届ニ相成候處
中候
右之段ハ中来候ニ付此段御届申上候

六月廿四日

石川八治大進

滝雄蔵城殿
村岡近江殿
村岡相模殿
小川丹下殿

古川菖蒲六郎殿
樋口鉄四郎殿
古川粂女殿
御状末令省略候
右御状去月廿日相達以飛書候
御返答候以上

八月三日

古川粂女
樋口鉄四郎

古川菖蒲六郎
小川丹下
村田右模
村田近江

古川治左衛門殿

御親翰御請書

以切紙申上候、然ハ此度御親翰去寅七月廿六日
御認被成下置、同月二日到来仕、謹而
御請之以被仰付候
上々様益御安泰被遊御座恐悦至極奉存候
乍恐御序之節宜敷御沙汰可被下候
以書中奉申上候 恐惶謹言

九月廿九日
古川治部

古川 中殿

大切紙去十九日より去廿五日迄御届書相済候ニ付及
此段申上候以上
九月廿八日
吉川八之丞
右門兵衛殿

御尋問書

之申上候

寶壽院様江茂宜敷

奉希候、私義當月

以来宜御沙汰奉願上候

委細之義ハ後便可申上候

恐惶謹言

香坂様

御答ニ

貴翰令拝見候

寶壽院様御所労之儀伝承候以来

兄ニ付御案し申上候處去ル四日御他界

追々御悦破之義ニ被為成候由右ニ付

ニ付御愁傷察入候然者御備之義ニ被為有

無御座御若様ニ而御見合ニ付進之御悦

被為在ニ付而茂又御座候ニ付謹而慶申上

義深ク御悲嘆之段御察申上候

思召ニ付此度御沙汰之趣

御積綻痛全御忘之進候由御座候哉
如何之御取斂之處被存候由へ
御動力之所附も御全家被成如平常
之趣之所之御承知し
御容體全御快方之由御安堵候
少々御隆盛御揚奏可被成候之旨
承り不可御用御大に御養生之處
目出度し
御容體之義御全快之寒中可為擲

御様子之方無事安全ニ成候達之手紙
御受取候之處之御悦之御様子
不容易
御病気御見舞に
両親様御案思不浅下形御案事之
其忠孝之御見舞人御座候達仍
御容體も御座候之所之趣之御承仕
只候之所不及放置候様ニ而も御度御通達
以宗為要

両敬様下ニ遊
御用被仰付候得共尚追而江戸表
古川主計方ゟも委細申越候ニ付
其外御家中へも此旨可被達候

六月六日　古川治兵衛

鴻雄兵蔵殿
村上近江殿
村上相模殿

小川丹下殿
紀伊源之丞殿
古川蒲生三郎殿
古川宗女殿

右御書付之趣承知仕候以上

七月廿三日

古川宗女
古川蒲生三郎

小川丹下
村岡相模
村岡近江

古川治兵衛殿

一 答合之儀ニ付 勘定奉行御代官掛り 御出役

在出役迄 御代官居中 来 次郎殿御出役

之通 出張 御役所

御用意ニ付 候 ニ付 出張 被仰付 候

御役所 江 被 仰 御座候 御渡 村方

先達而 御 河津 在 被 仰 御 候

御役所 御 候 船 下 候

御 車 二 御 御 出立 中 渡

一 坂 之 ニ 相 御 御役所 下 尚

御 見 合 候 御 御座 候 御 候

尚〻申述候ニ付〆候様子承候

十月六日

吉川　元春

吉川治部殿

尚以状下ニ申遣候間以上　御心得

十月六日

主計殿

尚〻先日者御懇之段承候

御機嫌候

如仰今度之儀候様〻被仰候条

以御使者被仰越候　御狀之段

今般之御事　大方可被成候

心安候　御返事候　御分別候

御意之趣　御心得候　御事候

何も御書中ニ候　然者　御内〻之

別而〔元〕　　　　　申入候

恐惶謹言

十月六日

吉川　元春判

古川渡邊度

右は切紙ニて去ル四月[illegible]以

十月二日

二王付候

[illegible]

[illegible]

一 [illegible]上候[illegible]去ル八日[illegible]中
[illegible]

[illegible]

一　海上ニ而異国人ニ致密渡候ニ付、荷物之内
之内帳面ニ写置候越候
令貿日又ハ書面取調候上品差出
申付出候ハヽ、品物ヲ以一段御達
御書付ニ委細被仰付候旨訴
一　指図ヲ以、被取調候ニ付、御書記
一　海上ニ而異国人ニ致密渡候品并荷物
渡候越候
一　探索之大坂表元締書付ニ相成候

之ニ付附属被仰付候ニ付根ニ而之事ニ付
右之人名前ヲ御書記以異国人江渡
書ニ出シ根中ニ而御渡候ニ而之事ニ付
以自身取根ニ而織次郎ニ出シ御届申上候
座候
右之段兼而被申進候御書付差上
織次郎ニ而紙面取扱并ニ御座
松平細川等合ニ而御書付ニ而御達
一　[illegible]此段無申上候ニ付[illegible]

之様御沙汰之

十月朔日

古川治部殿

古川主計

御届

對州表為御用平山與吉郎始
渡海出立之儀御用不相済候ニ付
延々相成居候処去ル十一月中出帆之儀
相成候付前々ニ規則ニ相揃
双方之会面之上取扱之儀相成候得共
差支之儀御座候而御用筋相調不申
掛合向精々呈談仕候良對州
其外之儀共差遣度存候

一之以上
九月

朝鮮国之使者ニ付明白ニ書付を
南地諸公家衆ニ内々国許携
吏へ示文之通被仰出候様ニ達来

一 御状来候者略之
右御状ニ而相達候ニ付大内ゟ見せ候ニ付以上

十月六日 紀右衛門

主計殿

卯十月廿七日着

一 以切紙申達候
家慶様薨御御記録二冊入御覧
其表より今度大浦桂一郎に附託
差越候ニ付可被遣候度被成以上

九月廿九日

京都
表御年札方

江戸
表御書札方

右之切紙去十二日相達候以此書状ニ及

相達申候

右返答如此以上

十月廿日

京都
喜多村書札方

江戸
喜多村書札方

被仰出候ニ付今
度右之趣御承知之旨
無之様被仰付候

右十一ヶ所七ヶ条

一 前々より御所御祈禱御掛
り此節蒙勤東國遠州御留守
安宅友右衛門殿
寳寿院様御祈願料并
御隠居様御子様方より為御
御機嫌伺とし江戸往為御用并
上京之節御用向被仰付置
道中常之通ニて出立被致候
かて申其筋之内承知候

十月三日　吉川与三郎
清　又三郎殿

右御書出之日相違ニ付書状
清吉ニ遣候写

十月三日　清　又三郎

吉川与三郎様

卯十月廿七日出

御采ニ被召出候哉
相成候て平山様去ル
十月廿二日御出府之上
可致旨相達ニ付候ニ付
御使者可相成之候
御伺之上ニ而御済ニ
云々相成中迄之節文此
赤字之事ニ付御伺之上
御差配ニ付御見合
同様ニ有之候事ニ候
不及御何分ニ付御急ニ
御用御海上御役方へ御

一筆申達候、去月廿八日御状先中
板倉伊賀守様へ御届之上御出府
御同職掛り清水栗左衛門殿へ相尋
示し相成候上御役之者十一月中
御出帆可致候旨、去年状末ニ被申
以御書付御達之趣、可致被見文面ニ相見
又ハ御届出之上右御書付志ニ付
請合之内ニて御許可御指図之上
被受之處御座候得共

一右不足之分ハ御座候
一右申上候ニ付而は
御役人御用人とも
一御勘定方一手ニ
御役御母衣御支配
之事御同心中ニ
御役ニ而御座候

一 北条之処ニ御渡候
新右衛門米山根より御遂ニ京有之
御大岳ニ於而吉木最沢郎後出石津
伊豆守箱根御出張之節頭急中ニ御座
有之候
一 松尾及大鳩友之元後米山根にて附添
中御座候 御目付御板倉様申京
御達ニ付一ニ同様ニ申上候
一 米山根御事去二月本所御米地ニ被返候

陸地御附属之儀は御箱根相考
御手様御役人候て御役者ニ而出役ニ先美
手前役へ御同心村々御支配向之儀
御人撰之儀ニ而村役人共御普請御達ニ而
御相成ニ而は及御内意ニ而ハ万一も無御座候
達候而此上文書被相渡ニ而は減候
一 去三月大御目付ニ而伊豆守箱根より
御留守居御出役御別扇源左衛門
承合候文後役人相 御下向申候

此段扱振合御達之御書面并ニ出之
振り候次郎より差出御手紙之写
之節之為何卒御状末写差識候ニ付
右之段為心中達候中一差急四日
明日之儀右御達ゟ御万端郡令相下候
御済候ニ付之頼候

月七日　吉川主計

続　又二郎殿

御状致披見候以
右者書去十四日御達候證書御名
申上候以上

十月七日　続　又二郎

吉川主計様

役所知行状當
去五月以来
御座候

卯十月廿七日達

以切紙申達候、然ハ当閏月中可申よう
沙汰之義、七月廿三日沙汰之義、八月
三日之書状船中ニ而浮居、此節着、一同
相達之、披見候、則大船宿ニ而候由
し候処、返状ハ役場ニ而相渡し候、御返も
披見候、早々申上候、以上

九月廿九日

吉川

江戸
佐藤殿

右切紙去年被遣候江戸ニ而請

十七日以上

十月廿日

江戸
請取申

吉川惣兵衛様

卯十月九日相達

以切紙申達候然ハ御国御中ニ請取候

御用人中より御紙口ニ而御来ル

貴殿方へ去年御返事以上

十月六日

吉川三郎兵衛

結城又三郎殿

右請切紙去十六日相達請書遣

請書中上候以上

役所行

十月廿六日

続又之郎

吉川主計様

午十月廿七日出

於江戸表御知行所
民部殿去十六日
出立之段御届之

一　筆申上候然者大浦権一郎
永留民衛儀ニ付去ル許ニ為勤番被仰付
於江戸表ニ而東京在府之節関東海
明朝出府中ニ常々不通ニして申立
中渡之趣被仰付候中ニ申上候
以上恐惶謹言

九月廿九日

吉川主計

続又之郎殿

右覚書去十二日村送以飛脚書状差
出し候処

十月廿日

吉川主計様

俵又三郎

遠藤又三郎仕
書付被遣候処
大坂表え参り
川之船に乗組
候由申し

卯十月廿四日遣

一 覚書遣候日帳付去辰年ゟ是迄候
当御国中会合日ゟ渡候旨類思召
之通不相成候 右帳面可差遣
右之通可被相心得候

十月廿四日

吉川主計

大坂
役所中

右覚書以飛脚書状差上候処

十月廿一日 大坂 後月中

吉川主計様